

市民等との協働事業一覧
(平成26年度事業)

平成26年度市民等との協働事業一覧表

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1			
2		企画政策課	企画政策担当	男女平等情報紙発行事業	3			
3	生活安全部	防災課	防災係	青梅市防災講演会	5	○		
4		市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	7			
5				不動産鑑定士による無料相談会	9			
6				不動産無料相談会	11			
7				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	13			
8				青梅市市民のくらし展	15			
9		市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	17		
10					新任職員向け協働研修	19		
11	お〜ちゃんフェスタ2014				21			
12	市民活動団体向け「基礎から学ぶ会計」				23			
13	「おそきだより」の発行				25	○		
14	青梅市民センター			青梅市民センター運営協議会	27			
15				青梅市民センター文化祭	29			
16	長淵市民センター			長淵市民センター運営協議会	31			
17				長淵市民センターまつり	33			
18	大門市民センター			大門市民センター運営協議会	35			
19				文化展	37			
20				ふるさと地域散歩	39			
21	梅郷市民センター			梅郷市民センター運営協議会	41			
22				梅郷市民センター文化祭	43			
23	沢井市民センター			沢井市民センター運営協議会	45			
24				三田地区総合文化祭	47			
25	小曾木市民センター			小曾木市民センター運営協議会	49			
26				小曾木地区文化祭	51			
27	成木市民センター			成木市民センター運営協議会	53			
28				成木地区文化祭	55			
29				東京ヒルクライム(自転車競技)	57			
30	東青梅市民センター			東青梅市民センター運営協議会	59			
31				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	61			
32				ままにこっと講座	63	○		
33	新町市民センター			新町市民センター運営協議会	65			
34				新町末広地区市民文化祭	67			
35	河辺市民センター			河辺市民センター運営協議会	69			
36				河辺市民センター文化祭	71			
37	今井市民センター			今井市民センター運営協議会	73			
38				今井市民センター文化展	75			
39				市民ウォーキング	77			
40	市民部			スポーツ推進課	スポーツ推進係	第49回青梅マラソン大会	79	
41						ままにこっとによるスポーツ教室	81	○

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
42	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2014	83			
43				おうめ環境ニュースの発行	85			
44				クーズビズ運動	87			
45				みんなで打ち水!	89			
46				ウォームビズ運動	91			
47				エコドライブ運動	93			
48				みどりのカーテンコンテスト	95			
49				ガサガサ水辺の探検隊	97			
50				下水処理場の仕組みが学べる親子見学会	99			
51				多摩川まるごと遊び塾	101			
52				子どもカヤック体験教室	103			
53				炭焼き体験と水辺の交流会	105			
54				がんばれ! あゆっ子2014	107			
55				やってみようか 昔懐かしい子どもの釣り体験教室	109	○		
56				親子さかな釣り体験教室	111			
57				いかだで遊ぼうin霞川 part6	113			
58				じゃぶじゃぶ川の中で遊んじゃおー	115			
59				川で何でも遊んじゃおー	117			
60				飼い主のいない猫のための「里親会」	119			
61				動物愛護啓発映画上映会	121			
62				さくらねこ無料不妊手術事業	123			
63				おうめこどもエコクラブ	125			
64				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	127	
65						生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	129	
66	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	131						
67	健康福祉部	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	133	○			
68			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	135			
69		認知症サポーター養成研修事業		137				
70		介護サービス相談員事務		139				
71		高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	141					
72	障がい者福祉課	庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	143				
73		相談支援係	お助けマン養成講座開催	145				
74		認定サービス係	青梅市入門・初級手話講習会	147				
75	健康課	健康推進係	第45回おうめ健康まつり	149				
76	子ども家庭部	子育て推進課	子育て推進係	青梅市子ども・子育て会議事業	151			
77		子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズパーク」管理・運営事業	153			
78				子育てひろばC型事業(にここ広場)	155			
79				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	157			
80				子育てネット事業	159			
81				子どもふれあいフェスタ2014	161			
82				青梅市民センター子育て支援事業	163			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
83	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	青梅市次世代育成支援地域協議会事業	165	
84			青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	167	
85	まちづくり経済部	都市計画課	景観係	青梅駅周辺景観まちづくり	169	
86		公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	171	
87				緑地管理ボランティア	173	
88				青梅の森柚保プロジェクト(青梅の森保全事業)	175	○
89				青梅市梅の公園花木苗の植栽ボランティア	177	
90		商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	179	
91				梅の公園ガイドボランティア事業	181	
92		農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	183	
93		教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	185
94	社会教育課		生涯学習推進係	釜の淵新緑祭2014～生涯学習フェスティバル～	187	
95				家庭教育講演会	189	
96				親子で楽しく文化体験!	191	
97				あつまれ!0・1・2・3ちびっこ☆ランド	193	
98	中央図書館管理課		業務係	「この指とまれ!」朗読会	195	
99				中央図書館整架ボランティア	197	
##				おはなしボランティア	199	
##				読書推進特別映画会「疎開した40万冊の図書」	201	○
##	市民提案協働事業	住宅課・市民活動推進課		おそきいいとこ再発見!!	203	
##		健康課		～初めてママになる人のために～マタニティ♡安心ストレッチ	207	
##		社会教育課・市民活動推進課		おうめ若者カフェ	211	

協働事業評価シート

(100事業)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入れ事業	担当課	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	------------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年2月14日から15日 場所:第49回青梅マラソン大会会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	国際交流の親交のため、青梅マラソン大会に参加する外国招待選手等選手・役員の受入れを、青梅・ポッパルト友好協会および青梅市日中友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会により多くの外国人に参加してもらい、国際交流を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	ミッテルラインマラソン大会招待選手団(3名)、北京市選手団(6名)について、市長への表敬訪問および開会式・大会当日の支援を行った。
(5) 事業経費(決算額)	ミッテルラインマラソン大会招待選手団成田空港迎え 99,290円(バス借上+有料道路+駐車場代)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:①青梅・ポッパルト友好協会、②青梅市日中友好協会 参加人数:①9名 ②4名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行っており、結びつきも強いいため、外国人選手の招待について青梅市との共催事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:来青までの事前調整、宿泊先の確保等については、友好協会で行なっている。 行政側:大会前日、当日の誘導や通訳者の確保および市内観光の引率を市で行っている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
青梅マラソンを通じた市との協働により、友好都市の方々との交流を更に深めることができた。			
行政側			
普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、事前調整や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。			
行政側			
青梅マラソン(スポーツ)交流を継続していくため、受入体制等、身の丈にあった対応を検討して行く。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	企画政策課企画政策担当
------	-------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他
2継続事業	
(2) 事業の目的	男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(4) 実施内容(実績値等)	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。
(5) 事業経費(決算額)	1, 048, 025円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 食を考える会、NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、市民一般公募(2人) 参加人数：各団体1人ずつ計5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めようため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政としてかわりのある様々な分野において、個人的には難しいと思われるところの取材等、貴重な経験ができたとともに、青梅市の行政の一端を知る良い機会になった。</p>			
<p>行政側 市民と協働で発行することにより、堅苦しい情報紙ではなく、市民が読みやすい情報紙が発行できた。内容について市民が知りたい情報や疑問に感じていることなどを話し合うことができ、意見交換の場としてもよい機会である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 単なる情報紙ではなく、男女共同の視点で編集するために、青梅市の男女平等参画のプラン等、その認識を編集委員が共有することが必要であると考えます。</p>			
<p>行政側 男女平等参画社会の実現をめざし、行政が発行する情報紙としての認識を維持しながら市民が親しみやすい内容の情報紙を発行しなければならない。また、編集作業において役割分担を整理することで、より効率的な運営体制となる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課防災係
------	----------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年1月18日(日) 午前10時から12時 場所： 青梅市役所2階204～206会議室および災害対策本部室
2継続事業	
(2) 事業の目的	平成27年1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容(実績値等)	講演内容 ○気象災害への備え～自分の身は自分で守る～(講師 青木 孝 気象予報士 元気象庁予防課長) ○地域防災計画の概要と市民ハンドブックについて(防災課職員)
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数： 362名(市民含む)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	元気象庁予報課長であり、現在、(株)ウェザーニュースに勤務している沢井2丁目自治会副会長に講演会の講師を依頼することになったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 自治会員に対する周知活動 行政側： 市民、関係機関等への周知

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政(防災担当)と自治会(自主防災組織)が一つの事業を実施することにより、平常時から連携を深めていくよい機会となった。 また、自治会員が講師として活躍することができた。</p>			
<p>行政側 市と自治会連合会が連携を図ることができ、参加者が前年より増加した。 また、市民の防災意識の向上を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 地域防災力を高めていくためには、「継続力」が重要である。講演会の講師・内容については、今回のように事前に相談いただければ、専門的知識を持つ自治会員を紹介することも可能。</p>			
<p>行政側 より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年10月14日(火) 午前10時から午後4時 場所：
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京都行政書士会多摩西支部 参加人数：2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。			
行政側 相続、遺言に関する相談や成年後見制度の普及を図れた。相談者数:16人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。			
行政側 行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年10月20日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。			
行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談者数:8人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年9月8日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	不動産取引に伴う一般消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産全般の相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	(公益社団法人)全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。			
行政側 市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数:37人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部 (法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	---	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年10月9日(木)・12月4日(木) 午後5時から午後8時10分 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数：各回1人 計2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日本司法支援センター(法テラス)からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。			
行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。 相談者数:延べ9人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年11月1日(土)・2日(日) 午前10時から午後4時 場所：永山公園グランド(産業観光まつりに併設)
2 継続事業	
(2) 事業の目的	『楽しもう日々のくらし！みんなの未来のために！～さあ挑戦だ！私とあなたができること～』をテーマに、自立した消費者をめざし、消費に関する知識や啓発を市民のくらし展を通して情報発信することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、展示、催し物等により啓発を行う。クイズコーナー 2日間 1,000人 東京牛乳ラスク・サブレの配布、2日間 1,000個
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー(食を考える会、パルシステム東京、コープみらい青梅・奥多摩コープ会等)900人、試食コーナー(東京牛乳ラスク・サブレ)1,074個配布 [人権・行政・交通安全・男女平等参画、自治会連合会]900人、おもちゃの病院12件 消費者相談9人 消費者クイズ300人、煙体験ハウス400人
(5) 事業経費(決算額)	委託料 1,051,946円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 『食を考える会』8人、『パルシステム東京』10人、『コープみらい青梅・奥多摩コープ会』11人、 『青梅総合高校』20人、『多摩高等学校』13人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度までは消費生活展として実施していたが、婦人会組織がなくなったため、平成17年度から市民のくらし展として現在の関係団体で実行委員会を組織し開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 啓発パネル等の制作、展示、説明 行政側： 会議の設定、会場の総括、準備、整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 2日間の来場者は延11,000人で、多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。</p>			
<p>行政側 多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。特にクイズの景品については、商品として市内産野菜を配布したり、青梅産の牛乳が含まれている『東京牛乳ラスク・サブレ』の配布により、地産地消の推進が図られた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 協働を依頼している各種団体の構成員の減少や団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力体制が負担になるとの意見もあり、規模の縮小などを含めた見直しが必要な時期にきている。</p>			
<p>行政側 現在3団体に協働のお願いをしているが、各種団体の構成員も自分の団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力について難しくなっている。市内の他の協力団体を発掘し、協力団体の数を増やす等、見直しの検討が必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月21、7月14日、10月8日、1月23日、平成27年3月26日 場所:市役所階会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	協働事業実施結果について意見をもらう。 今後の協働のあり方等について意見をもらう。
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金 80,000円(1人10,000円×8人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティアセンター 参加人数:9人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	協働相手:提案や意見の発表 行政側:会議の事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民目線での検討が加わることで協働を推進する課題が見えてくる。</p>			
<p>行政側 各委員の様々な意見を伺い、市は協働に対する認識がまだまだ不足していると感じ、改めていかなければと感じた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 委員一人一人の思いが様々で、テーマを絞って論議を深める事ができずらかった。また、委員会の論議したことがどのように活かされていくのか役割など検討したい。</p>			
<p>行政側 委員会の中で出た意見等を取り入れて、協働を推進していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新任職員向け協働研修	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成26年5月8日(木) 場所:市役所2階会議室
1単年度事業
(2) 事業の目的 新任職員に対し、協働について理解してもらい、ボランティアセンターを知ってもらい
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 協働について基本的事項を理解してもらい、今後の事業実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等) 「進めよう！市民と行政で行う協働のまちづくり」と題した講義、 「市民と協働したいこと」をテーマにグループワークを行った。
(5) 事業経費(決算額) 10,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:3人
(3) 協働の提案者 1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 協働の研修が新任研修に組み込まれることになり、ボラセンとの協働を投げかけた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 ボラセン:協働のグループワーク補助 行政側:研修の企画、講師との調整、消耗品の負担

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター グループワークではファシリテーターとして一緒に行ったことで、青梅ボランティア・市民活動センターを知ってもらうことができた。			
行政側 講義では、協働についての知識、必要性を学んでもらうことができた。グループワークでは活発に意見が出て様々な協働事業が提案されていたので、新人職員に対して協働についての知識が得られたと認識した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 新任職員さんたちから様々な協働事業が提案される中で、ボラセンとしても業務で一緒に実践できる提案ができる場を作っていきたい。			
行政側 新任職員に対し、協働についての基礎知識を伝授し、意識の向上を図り、業務で実践していけるよう引き続き行っていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2014	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年9月21日(日) 場所:市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。 地域や世代を超えた交流や発表の場を創り、より一層のコミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民がさまざまな形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	・ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業等の活動紹介と展示、模擬店出展、バザー
(5) 事業経費(決算額)	1, 120, 336円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:育梅巾仕会福祉協議会 参加人数: 3, 900 名(うち出店者・関係者 1, 019名含)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業実施、広報活動(広報おうめ以外) 行政側:事業実施のサポート、広報活動(広報おうめ)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 諸団体、市民、企業などがフェスタを通し交流することで、相互の理解を深めることが出来た。			
行政側 ボランティア団体の活動状況を把握でき、コミュニケーションを図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 荒天時などあらゆる事態を想定した打合せを十分に行い臨んでいきたい。			
行政側 協働事業として今後確立させるため、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座 「基礎から学ぶNPO法人の会計」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	--------------------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年1月29日、2月5日 場所:福祉センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化をすることで、新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	組織運営について基本的事項を理解してもらい、今後の団体運営および協働事業の実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「基礎から学ぶNPO法人の会計」と題した講義と演習 参加者 延べ44人
(5) 事業経費(決算額)	報償費 40,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:育梅ホフンアイノ・市民活動センター 参加人数:3人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:企画、受付、運営 行政側:企画、受付、広報、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体が必要としている研修を行うことができたため、多くの団体が参加した。また、団体内で確認し合えるように複数名での受講を提案したことで講座の効果を高めることもでき、団体運営の支援ができた。</p>			
<p>行政側 日頃、市民活動団体と接することが多い青梅ボランティア・市民活動センターと行うことで、講座の企画には団体の必要としている内容で企画していった。また、団体へ直接周知してもらい、講座開催を多くの団体に周知することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体が組織を運営していく上で必要としている内容を把握し、行政と十分な協議をして臨んでいきたい。</p>			
<p>行政側 2日間での開催では、内容が広すぎ時間が足りない部分があった。団体が必要としている内容を開催できるように講座を開催していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年6月、9月、12月、平成27年3月（年4回発行） 場所：小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	小曾木だよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、小曾木だよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容(実績値等)	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費(決算額)	198,288円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おそきの学校と地域を考える会 参加人数：39名（おそきだより発行部数1回1,700部、小曾木地区全戸配布、市内要所配置）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側：経費の負担、編集、配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 編集会議の段階から記事の作成・校正まで保育園長・小中学校長・自治会関係者・市民センター長など青梅市職員等を含めた人員が参加して紙面作成を行い、青梅市の協働で発行することにより、個人の意見でない地域の持つ課題や情報として周知され、市民意識の向上につながっている。</p>			
<p>行政側 協働で発行することで、市民の身近な情報や地域の課題が掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 小曾木地区の諸活動の基軸として「おそきだより」は存在し、活動の展開につながっている。市民側からの情報とともに行政側からの積極的な地域への提案があると、より市民・行政の一体感が深まった中での地域課題の理解や解決へ向けての相互努力につながるように思う。</p>			
<p>行政側 地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成26年8月7日 第2回 平成27年2月25日 場所:青梅市民センター多目的室
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター施設利用状況、生涯学習事業実施状況、図書館利用状況、市民センターの運営について協議
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター運営協議会謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第1支会、スポーツ推進委員、青少年委員、1中PTA、1小PTA、青梅地区高齢者クラブ連合会、センター利用団体、公募委員 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:市民センターの運営に関して協議する。 行政側:協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センター施設の利用状況や業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。			
行政側			
市民センターの運営等について率直な意見が得られやすい良い機会になっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にしたい。			
行政側			
今後も運営協議会の意見を尊重する。内容を検討して実施できるものを積極的に実施していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年11月29日(土)・30日(日) 場所：青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定をし、延べ360人の入場者をえた。
(5) 事業経費(決算額)	20,643円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数：16団体および地域の個人1人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表の場と交流の場、親睦の輪を広げるため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 団体代表者および担当者が年5回の実行委員会に出席。前日、当日は会場設営および撤収等を実施。 行政側： 実行委員会業務、当日に向けての準備事務、会場準備等を実施。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 自主グループの活動発表の場、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として成果があったと思われる。			
行政側 行政と自主グループおよび地域住民との交流が図られ、活動内容も把握でき、今後の市民センター運営の参考となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 発表の場所等のよりよい会場づくり、さらなる地域への周知および集客方法。			
行政側 地域住民を含めて新たな参加団体および地域への周知及び集客方法。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成26年7月25日、 第2回 平成27年3月4日 場所:長淵市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、二中PTA、友田小PTA、一中PTA、元第二婦人会、スポーツ推進委員、青少年委員、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:センター運営全般について協議する 行政側:センター運営全般について協議する

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にした い。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センターまつり	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月8日、11月9日 場所:長淵市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センター利用団体の作品展示等により活動状況を広く市民に紹介するとともに、地域団体等による地域住民の交流の場を設け、地域の連携、コミュニティの醸成を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	長淵市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体の作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定
(5) 事業経費(決算額)	支出額:17,130円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵市民センターまつり実行委員会 参加人数:20団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会での打合せ。センターまつりの会場の設営および片付け。 行政側:実行委員会関係業務、センターまつり日程の周知、展示等機材の提供。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。			
行政側 市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回(平成26年7月31日),第2回(平成25年2月25日) 場所:大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的活用および適正かつ円滑な運営について協議すること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の団体や市民が主体となった協議機関として、市民センターに置く機能や運営について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用状況、住民票等の交付状況、文化祭等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	報賞費 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:団体名:第3支会1名、保育園園長1名、子供会育成会1名、青梅市スポーツ推進委員会1名、霞老壮大学1名、防災対策委員会1名、中学校校長1名、利用団体1名、公募委員2名 参加人数: 合計10名(男7、女3)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの効果的な活用、サービス向上について意見交換ができ、地域住民の要望等を得やすくなったが、予算の制約から実現に結びつかない事項があった。</p>			
<p>行政側 センターが地域に密着し市民の声が行政に反映され、また行政から地域への情報等が円滑に行え、地域の拠点としてのセンターに有効である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より活発な発言が出来る関係づくり</p>			
<p>行政側 センターをより効率よく運営出来るよう協議会の意見を尊重し実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月15日・16日 場所: 大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体および地域住民の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場として、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動および地域の住民の発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーおよび地域の人々の作品の展示や発表を行い、大門地域のふるさとまつりと同時開催の 効果もあり2,669人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 3,000円 パネル準備費 202,000円(6センター協同)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:大門市民センター文化展実行委員会 参加人数:369(参加団体加入者および実行委員長)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性と活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 団体代表者が実行委員として会の運営に係る。当日は、参加団体メンバーが行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。 行政側: 実行委員会を開催して協議を進める。展示等に必要なものを準備する。展示パネルの設営・撤去。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。			
行政側 施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 より多くのセンター利用団体による参加、出品、発表。 展示スペースの拡充。			
行政側 展示会場、展示道具の老朽化。 舞台を必要とする団体は発表ができない。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ふるさと地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年2月21日 場所:大門市民センター管内
2継続事業	
(2) 事業の目的	近くに住む人同士親睦をはかりながら、身近な地域を知り、新たな発見、人とのつながりをつくることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民に参加してもらうことにより、地域住民の親睦を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	大門市民センター管内約4kmを散歩しながら、地域の歴史の話を聞く。
(5) 事業経費(決算額)	市予算(市民活動事業経費・報償費・講師報償金)から 7,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: :霞川くらしの楽校 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域を活動拠点としていたので、センター事業を実施したい旨相談したところ、目的が合ったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側: 事前協議、広報等での周知、当日の資料準備等の事務

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域で活動している団体なので、地域住民との親睦をはかるとともに、団体の活動内容を知ってもらうことが出来た。</p>			
<p>行政側 身近な地域の歴史に触れるとともに、地域の人達の交流をはかることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 今後もセンターとの協働で実施していきたい。</p>			
<p>行政側 今後も内容を変え、霞川くらしの楽校との協働で実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成26年6月24日(火)、第2回 平成27年3月26日(木) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円(第1回 5,000円×10人、第2回 5,000円×9人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、 参加人数： 10人(男性6名、女性4名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。			
行政側			
市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
運営協議会の意見等を尊重し、市民センターの運営に対応していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年11月9日(日) 場所：梅郷市民センター体育館、会議室、駐車場
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。
(5) 事業経費(決算額)	支出額：69,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数：25人
(3) 協働の提案者	2 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での打合せ。文化祭会場の設営および片付け。 行政側： 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある。			
行政側			
施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側			
参加団体および入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成26年8月26日 第2回 平成27年3月4日 場所： 沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団団長(1)、高齢者団体(1)、PTA 会長(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数： 8月26日の出席者は10人。3月4日の出席者は9人。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側： 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月16日(日) 場所:沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数600人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 20,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	「第5支会」約10人。「清涼会」(老人会)約10人。「三田同友会」約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体167人参加。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ 行政側: 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片付け

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。</p>			
<p>行政側 事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 若い世代の参加および来場者が少ない。</p>			
<p>行政側 市民センター利用団体も高齢者が多く、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成26年8月8日、第2回 平成27年2月25日 場所:小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの運営を適正、円滑に進める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成26年度市民センター関係予算、市民センターの在り方、平成26年度市民センター生涯学習事業の実施状況、市民センター・図書館の利用状況、平成27年度市民センター予算・生涯学習事業の予定
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:自治会第6支会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民のニーズに対応した市民センターの運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 地域発展に向けて市民センターの在り方にを検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側	市民センターの運営状態が良く分かった。		
行政側	市民センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。		
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側	市民センターの利用率を高めるための工夫が必要であると感じた。		
行政側	委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。 市民側から施設・備品の老朽化等を指摘され、改善の要望等をいただくことが多いが、市の財政状況等から対応が困難な場合が多い。		

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月8日、9日 場所:小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金および寄付金等で運営。14,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数:20団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地位住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側: 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターがより身近な存在となる。 市民により親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センター利用団体および文化団体が高齢等の理由から参加者が減少傾向にある。			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので是非続けたい。 演奏は六中吹奏楽部で野外(市民センター駐車場)で演奏のため、天候により会場が変わる問題がある。これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年8月5日、平成26年3月6日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成26年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成26年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況について・平成27年度市民センター予算の概要・平成27年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会、第七支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、地区内教育環境研究会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年11月8日、9日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	63,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会文化祭実行委員会 参加人数：26団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ (自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	-------------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年9月21日 場所：成木市民センター～常盤林道
2継続事業	
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数500名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数：316名(レース参加者(棄権等除く))
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側： 準備品用意、交通整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成26年8月7日(木) 第2回 平成27年2月5日(木) 場所:東青梅市民センター第1会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策地区委員会第八支会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名、文化団体1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人子ども未来1名、公募委員2名 法人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センター運営のあり方を検討する。 行政側: 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対し、要望等を提案しやすくなった。			
行政側			
率直な意見が直接聞けるため、市民センターの運営に直接反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからもより活用する。			
行政側			
現状は、行政側から情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとし、市民センターをさらに良くすることを課題としたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年10月11日(土)、12日(日) 場所:東青梅市民センター体育館および和室
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用者などの文化活動の成果を発表する機会を設け、広く地域市民が見学、参加等を通して、地域の文化活動の発展や交流をより一層図っていくこと。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場とする。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センター利用団体および個人等の作品等の展示、演奏、実演。 作品数337点および20曲 観覧者492人
(5) 事業経費(決算額)	支出額:17,587円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会第八支会1名、利用団体代表者(文化系)17名 参加人数 18名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各種団体の発表の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を設置し、会場配置図等を作成。各団体で会場設営を行う。 行政側: 展示用具等の提供。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側			
自分たちの表現しているコトモノをより効率的な場が作れる。			
行政側			
利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
提供される場のより良い環境づくり。			
行政側			
展示会場、展示用具の老朽化、参加サークルの高齢化に伴う参加人数・出品数の減少。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ままにこっと講座	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年3月8日・12日 場所：東青梅市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	子育て中の若いママさんのスキルを活かし、新たな人材発掘を図り、居場所、活動場所を提供する。 あわせて、参加者を含めたコミュニティを支援する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域に埋もれている人材の発掘 活動場所、居場所、コミュニティの醸成
(4) 実施内容(実績値等)	親子の触れ合いおよび参加者の親睦 ハワイアンリミック、幼児英語
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 24,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	ままにこっと(新たに設立された団体) 参加人数：5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新たに設立された団体の支援
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 講座の運営および講師、必要な用具等の提供、資料の作成 行政側： 会場の確保、参加者の受付、広報および報道機関による周知、印刷、消耗品の提供、講師報償金

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ・講座の集客・団体の広報にご尽力いただき、追加講座を実施するほど満員御礼でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の事前受付、準備・当日の講座運営の負担が軽減されました。子どもが小さいので助かりました。 ・市のサークル制度がママたちの活動に活用できる話を伺えました。今後活用したいですし、市の制度をママたちに伝える側になっていきたいです。 ・講座や団体の運営についてアドバイスいただき、今後の活動の仕方が明確になりました。 ・青梅のママたちが輝ける場をという想いはありましたが、子どもが小さく一歩踏み出すのに勇気が必要でした。 <p>今回ハード面でもソフト面でも協働できたことにより、すばらしいスタートをきることができました。本当にありがとうございました。</p>			
<p>行政側 新たな団体との連携が図れ、十分とは言えないが若い世代の発掘、交流を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けの施設(プレイマット・オムツ台・授乳室など)がないので、市の施設が増えると嬉しいです。 ・今後も活動する際に、センターにチラシを貼っていただいたりなど市の広報力に期待。 市のご協力があれば、参加者の最初の一步として参加しやすさがあると思います。宜しく願いいたします。 ・今回の講座でアンケートを実施できたので、今後はより意見を組み込んだ活動をしていきたいです。 			
<p>行政側 新たな団体の支援方法の模索、活用方法 発掘された人材の活用ならびに活動場所の提供</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成26年8月21日 第2回 平成27年3月5日 場所:新町市民センター第2会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターの効果的な活用を検討するために設置
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの運営に関して協議する。
(5) 事業経費(決算額)	新町市民センター運営協議会委員謝礼金80,000円(5,000円×10人×1回、5,000円×8人×1回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 新町市民センター運営協議会(第九支会、青少年対策地区委員会1名、小学校PTA1名、中学校PT1名、施設利用団体1名、公募委員2名) 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:市民センターの運営に関して協議する。 行政側:協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対して、要望や意見の発言により、センターを身近なものにできる。			
行政側			
市民側の意見を直接聞き、センター運営に反映することが可能となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターのより良い運営に向けての意見交換の場として活用する。			
行政側			
運営状況等の情報提供を積極的に行い、住民の意見収集の場として活用し、市民センターの良好な運営を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	--------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月8日(土)、9日(日) 場所:新町市民センター体育館および本館(会議室、和室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターを利用している文化団体の活動を広く地域住民に紹介するとともに、新町市民センターを地域の交流の場として活用することを目的に実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域住民が、文化活動の成果を発表し、発表の場としての新町市民センターに来館することによって、地域住民の交流による地域の活性化を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	作品展示・舞踊、演奏、模擬店および地元農産物の販売等
(5) 事業経費(決算額)	支出した額89,452円(消耗品22,503円、パネル運搬費43,200円、文化祭用白布等洗濯料23,749円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:新町末広地区市民文化祭実行委員会(新町市民センター運営協議会委員10人、文化祭参加団体の代表者20人、青梅市自治会連合会第九支会役員および前年度第九支会役員15名) 参加人数:45名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会を組織し、主体的に運営する。 行政側:展示に必要な用具の提供と実行委員会として事務局の機能を果たす。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効である。			
行政側			
市民の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施された。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
高齢化等により、参加者が年々減少している。地域の活性化のためにも、参加者の規模の拡大が必要			
行政側			
参加者、来場者の減少に対して、参加者による周知努力により増加を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回平成26年6月27日(金)、第2回平成27年2月25日(水) 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、分館図書館の利用状況、青梅市図書館の管理運営方法等のあり方等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:地元自治会2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、霞台第1住宅代表1人、民生・児童委員1人、スポーツ推進委員1人、公募委員2人 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センターの効果的な活用方法の検討 行政側: 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活かす

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益であったと考える。			
行政側 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 地域の様々な要望がなされても予算を伴うものはなかなか反映されない。			
行政側 要綱設置の協議会のため、単なる意見交換の場になってしまっていることが多い。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年10月18日(土)、19日(日) 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品を展示することにより、一層の河辺地区のコミュニティー醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援、市民センター利用率等の拡大および地域コミュニティーの醸成
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会自治会、食育クラブ等の出店
(5) 事業経費(決算額)	5,626円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数:29団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を設けることから、地域住民の作品展示へと拡大していった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での意見をもとに、会場準備、作品展示および片付けまでを市民センター側と自主的に協働して行う。 行政側: 文化祭実行委員会の設置、参加者募集、会場設置・設営事前準備のほかは、すべて実行委員会・参加者と協働で行う。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターを活動拠点としてきて発表の場ができ、活動が活発になる。			
行政側 利用者とのコミュニケーションが図れ、市民センター運営に効果があった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 双方良好な関係を保つことができたが、まだまだ参加者の自主性の向上を図る必要がある。			
行政側 長く継続してきた事業であるため、双方の良好な関係が築かれている。おおむねスムーズに開催できた。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回(平成26年7月3日)、 第2回(平成27年2月24日) 場所： 今井市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成26年度予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 参加人数： 述べ19人(第1回10人、第2回9人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
利用者からの意見や要望に対する行政の適切かつ的確な対応。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年11月1日、2日 場所：今井市民センター体育館、和室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い719人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展消耗品費12,960円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：今井市民センター文化展実行委員会 参加人数：述べ89人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会により会場の配置図等を作成し、各団体で会場を設営する。 行政側：展示用具等を提供する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。			
行政側			
施設利用団体の活動内容の把握と交流をはかることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センター利用団体のより多くの参加、出店、発表			
行政側			
出店、発表者へのより良い環境づくり。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年1月25日 場所：今井地区から小曾木・藤橋地区までの霞丘陵約6km
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民の体力増強・健康保持と合わせて「霞丘陵の自然」にふれあい、地域の連帯と異年齢層の交流と親睦を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	今井地区から小曾木・藤橋地区までの霞丘陵約6kmウォーキングする。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会連合会第11支会 参加人数：144人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	第11支会を中心に参加者を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：第11支会各種団体への参加要請、交通整理員確保とおしるこ等を提供する。 行政側：コースの検討と資料等を作成する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
霞丘陵の観察とともに、参加者相互の親睦を図ることができた。			
行政側			
行政と地域との親睦と協力を深めることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。			
行政側			
次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第49回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課
------	--------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年2月15日(日) 場所：10キロの部 日本たばこ産業青梅営業所東～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 日本たばこ産業青梅営業所東～川井(折返し)～青梅市総合体育館前
2継続事業	
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容(実績値等)	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費(決算額)	ボランティア用の帽子:178,848円 ボランティア弁当:1,787,400円 ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。 ※ボランティア用の帽子については、第48回大会中止のため、昨年度の購入分を利用。 昨年度、一部をすでに配布済みのため、不足した分を購入。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数: 2,719人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」
(6) 役割分担	市民側: 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側: 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	2
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 マラソンに関心のなかつた市民もランナーの頑張る姿、またボランティアの広範な活動等を見て、マラソンで素晴らしい、自分も参加してみたいと市民意識を盛り上げている。</p>			
<p>行政側 ※多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ることで、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。ボランティアやボランティア以外の方が、沿道であたたかい応援をしてくれると参加者からの多くの声をいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 全国的に多くのマラソン大会が行なわれ、ランナーが大会を選べる時代になった。時代に乗り遅れない大会運営をしていく必要がある。現在マラソンコースがせまいという問題もあるが、ランナーが楽しく走れるよう考えていきたい。</p>			
<p>行政側 ①ボランティアの割り当て(役割分担、配置場所)の再検討 ②ボランティアへの救命講習会の実施等、医務救護体制の強化 ③テロ等、非常時を想定した連絡体制・警備体制の見直し</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ままにこつとによるスポーツ教室	担当課	スポーツ推進課スポーツ推進係
------	-----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年3月21日(土) 場所:総合体育館
2継続事業	
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実施率の低い子育て世代が気軽に出来るスポーツ教室の提供 ・資格や特技を持つ子育て中の女性への活躍の場の提供
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツ実施率70%以上にすること。(青梅市スポーツ推進計画における目標値) ・子育て世代が集える教室の提供を通じて「子育て世代が住みたい青梅」に貢献すること。
(4) 実施内容(実績値等)	協働初年度として、乳幼児の母親向けにハワイアンフラダンス教室を開催した。 参加者:子ども12人、保護者12人
(5) 事業経費(決算額)	市・講師報償金 6,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: ままにこつと 参加人数: 2人(講師、講師補助員)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	企画政策課・ぷらっとカフェによるテーマ「青梅ならではの子育て」からの人的なつながりにより事業提案を受けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に(平成26年度は協力事業として実施、次年度以降は共催事業を実施予定)
(6) 役割分担	市民側: 企画立案、情報PR、当日の教室運営等 行政側: 市広報・HPによる周知、会場調整および準備、関係各課との連絡調整

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 ・市との協働ということで参加者に安心感・信頼感を与えることが出来る。 ・広報による募集が出来る為、団体「ままにこっと」やフラダンススクールの存在を市民に向けて広く周知出来る。 ・市の施設を使用出来る為、充実した環境の中で講座を開催出来る。 ・講座の開催や進行について行政側に相談出来る。			
行政側 ・団体「ままにこっと」自身が、市内の子育て中の女性による組織であるため、当事者意識をもって、青梅市に必要で、市民の方にも必要とされているスポーツ教室をスピーディに開催することが出来る。 ・有資格者の市民が、市民である参加者に教えることにより、青梅市においてスポーツを通じた相互学習が実現する。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ・今回参加者にアンケートを実施できたため、今後はより希望内容に沿った講座を開催していきたい。 ・市民がよりまちづくりに貢献しやすいように自ら講師に立候補できるようなシステムが欲しい。 ・子育て世代が参加しやすいように設備を整えて頂きたい(授乳室やおむつ替えシートなど)。			
行政側 ・青梅市第6次総合長期計画にある施策連動型のしくみ(ぶらっとフォーム)を生かして、各課、各団体との連動を促進し、協働活動を通じて青梅市のまちづくりに貢献できる活動として広げていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2014	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年6月1日(日)～27日(金) 場所:BOX KI・O・KU、市役所1階ロビー、明星大学青梅キャンパスほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費、講師報償費、印刷製本費等 合計200,027円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2014実行委員会、ボランティア等 参加人数:50名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 初めて1か月間のフェスタが実現したのは、一重にし環境部の協働事業への理解度の高さと、環境政策課担当職の誠意と努力の賜物である。広報おうめの紙面や折込の環境ニュースの準備、目的別の複数回掲載などPR効果を高められた。前年度から市民側の負担がさらに軽減され、企画に専念できた。実験的冒険でもあった環境月間が環境フェスタ期間とした企画はしの協力なくして有り得ないことである。人事異動で部課長、担当職の交代があっても保障される協働体制が継承できるか最大の関心事、不安材料である。			
行政側 市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールするこの事業は啓発効果が高く、環境について考える場を提供できるといった点からも意義があると考えている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ごみ分別ゲームで毎年清掃リサイクル課の参画があるのは高く評価したい。環境部長、環境政策課長以下政策課担当職員は精一杯努力していただいたが、フェスタのイベントごとに、他の係職も分担されて、管理係のみに負担が偏らないようにしていただきたい。市民として安心して自由な企画が立て難いです。			
行政側 参加主体の増加に伴い、実行委員会にはさらなる調整力が求められていること、また、会場を変更したことや、実施期間を延ばしたことで、更なる柔軟な対応や配慮が必要になってくると考えられる。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年3月15日発行 場所:市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成26年度における市の取り組みや、多摩川周辺で活動する市民団体の紹介等を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費 203,407円(支出額) 広報配布委託料・戸別配布委託料 241,800円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側: 記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政の広報という公の視点で市民団体の活動や青梅を取り巻く環境を伝えることができた。行政と市民がともに地域の環境の課題に取り組む姿勢を一般市民にアピールし、参加を呼び掛けることができた。</p>			
<p>行政側 市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 広報と別紙で配布しているが記事に目を通す方がまだ少ないようで反応が聞かれない。環境意識の向上、参加の呼びかけ等のためには、目を惹く写真などを表面に載せたり、関心を惹く記事内容の工夫が更に必要。</p>			
<p>行政側 市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えているが、より多くの方々に読んでいただけるような工夫が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	---------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月11日～平成26年10月11日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費6,480円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 クールビズについては、周知されつつあるが、更なる意識啓発のため、啓発物品(卓上のぼり旗)の提供と、それをういた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月27日～平成26年8月2日(打ち水ウィーク) ※7月31日は全市一斉打ち水 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 打ち水の実践 行政側: 企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		3
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、ある程度の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年11月15日～平成27年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費6,480円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、エコドライブ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 今後も啓発物品(ステッカー)の提供やポスターの掲示等により、周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテンコンテスト	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月18日～10月25日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:青梅ガス株式会社本社(表彰式会場)
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭、事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバック活用
(5) 事業経費(決算額)	報償品費・消耗品費6,998円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス㈱から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス㈱を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側: 周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 弊社の環境方針に相違ない事業であり、その他の環境活動啓蒙と相互に展開することで、市民への環境保全意識高揚を推進できたものとする。ご参加いただいた方に緑のカーテンを設置する事により日差しを遮り、成長過程で多くの水分を吸収し、葉から水分を蒸発する際に熱を奪うことにより温度の上昇を抑えることについて理解を得られた。</p>			
<p>行政側 みどりのカーテンコンテストの実施を行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの周知は、みどりのカーテンそのものへの取り組み喚起につながったと考える。受賞作品選定において、専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 今後は、若中年層(M/F1~2層)を取り込む展開を企画する必要がある。また、副賞の再検討、それに併せ参加者増を見込む募集プロモーションも検討可能。参加者の減少と同一の方の参加が多くみられるようになってきているので、宣伝等の改善及びゴーヤのみが緑のカーテンではなくほかの種類で行う事も検討したい。団体での参加については、青梅市に携わる団体と一般の団体と区別し、青梅市の施設での参加を多くする。</p>			
<p>行政側 今後も、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体が増え、コンテストにも参加していただけるようアピール方法を検討したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ガサガサ水辺の探検隊	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月5日(土) 場所:河辺市民球技場前の川原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(4) 実施内容(実績値等)	ヤマメ・鱒をつかみ取りして自分で調理、ライフジャケットを着用しての安全指導の他、水の中に棲む色々な生物を捕まえて観察するガサガサ体験など
(5) 事業経費(決算額)	313,280円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム6人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。比較的連携がよかったですと思います。</p>			
<p>行政側:当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:子ども達がカッターナイフで魚をさばくとき怪我しないように、必ず親子でさばくことを徹底する。魚を焼く数が大変多いので火傷、熱中症に気をつけること。魚のつかみ取りをするための生け簀づくりが大変重労働のため、次年度はコンボで工事することを検討する。</p>			
<p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	下水処理場の仕組みが学べる見学会	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年8月1日(金) 場所:多摩川上流水再生センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに日頃使った水の処理方法について学び、水の大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに日頃使った水の処理方法について学び、水の大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	多摩川上流水再生センターにて、水の処理方法について学ぶ事業
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム2人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として、青梅・多摩川水辺のフォーラムから提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民側では企画、運営を主な役割とした。行政側は広報、応募者の受付を行っていただいた。比較的連携が良かったと思われまます。			
行政側 参加者は少なかったが、有意義な見学会が実施できた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 応募者が大変少なかった。見学場所が昭島の多摩川水再生センターとかなり遠いことが原因とも考えられます。我々の生活にとって下水処理は大変重要なことです。市民として一度は見学して理解する必要があると考えます。そのようなことから次回はマイクロバスを準備してはいかがでしょうか。			
行政側 見学場所が昭島市と遠いことから、交通手段が課題である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年9月6日(土) 場所:河辺市民球技場前の河原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	河辺の川原で自然体験および水生生物観察、安全教室、広場でタッチングプールで生き物と触れ合う
(5) 事業経費(決算額)	244,475円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム7名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめ環境市民会議水辺チームから協働提案があったことを契機に、平成19年度から協働を行っている。「ふるさとの川プログラム」の親水事業の拡大にともない、現在の形に移行。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。比較的連携がよかったと思います。			
行政側:当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:この事業の終わり頃、大雨が降り川の増水が心配された。幸い事故はありませんでしたが、今後天候に十分気をつける必要があります。また、川遊びが中心なので安全面を徹底するために安全担当者を決めておく必要があります。			
行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもカヤック体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月19日(土) 場所:釜の淵プール下河原、釜の淵市民館
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(4) 実施内容(実績値等)	カヌー(カヤック)操作の入門コースと安全指導
(5) 事業経費(決算額)	200,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:4人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、カヌー協会との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、短期間で定員オーバーとなった。また、釜の淵市民館の利用(座学および休憩所)など、募集および施設利用の両面において、協働効果は絶大であった。</p>			
<p>行政側:青梅市では複数の団体と、上流の御岳渓谷から下流の河辺川原までの間で様々な親水事業を展開しているが、中でもカヤックという専門の用具と指導者を要する当該事業はとりわけ異彩を放っており、親水事業の多様性という観点から重要な事業であり、実績から見ても充分効果的だと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:午前中の座学では、スクリーンを使用して、安全学習を行っているが、実際、川の中央は流れが速く、特に増水時には、流されるリスクが高まるので、青梅市カヌー協会の十分なスタッフ(指導員)を配置し、安全確保については、引き続き最大限行っていきたい。</p>			
<p>行政側:運営面においては、美しい多摩川フォーラムとカヌー協会の指導により、効率的に実施されていると考えている。ただし、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年8月22日(金) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	炭焼き座学⇒竹割り⇒竹の窯詰め⇒やまめ・ニジマスつかみどり体験・魚の解剖学習⇒昼食⇒着火・中止め～燃焼動向確認⇒水辺の安全教室⇒ライフジャケット浮力体験⇒川遊び体験
(5) 事業経費(決算額)	100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:4人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側:青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、短期間で定員オーバーとなった。また、ライフジャケットを貸し出していただくなど、協働による効果は絶大であった。			
行政側:内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き釜を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:昼食は、お弁当、お茶を提供しているが、ゴミは参加者各自で持ち帰るようにお願いし、ゴミの少量化に協力してもらった。			
行政側:事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2014	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月11日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流とヤマメのつかみどり、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏らの講義を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	103,673円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数:15名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:天然鮎の遡上に関する問題点、多摩川の自然に関する問題点を実際の川を目の前にして説明し理解してもらう効果はあがってきていると思う。また、行政側の備品提供等、暑い中での会場設置などの助成があればこそ継続できております。会としても大変感謝しております。</p>			
<p>行政側:市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上に関する課題といった、普段耳にすることのない問題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な人材は、当日の運営に安定感を与えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:参加者の安全管理は第一に考えねばならぬものと思います。ライフジャケットを支給して戴いてもいますので、川での安全な遊び方、注意すべきところなどの指導にも力を入れていきたいと思っています。なぜ、鮎は川を遡上しなければならないか(生命のサイクル)など、なぜを説明して理解してもらいたい。</p>			
<p>行政側:当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	やってみようか昔懐かしい子どもの釣り体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月20日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	子どもでも簡単に釣れる釣りに挑戦。懐かしい釣り体験と釣れた魚の説明を行った。
(5) 事業経費(決算額)	20,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成26年度から新たな事業として、奥多摩川友愛会から提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:参加親子に今ではあまり行わなくなった昔懐かしい釣りを教え、餌の取り方から釣り上げるまでを実際に行ってもらい、川の遊びの楽しさ、良好な自然が人にもたらしてくれる恵みを良く理解してもらった。また、親子で協力して釣り方を教え合い、解らないことは子供たちが自主的に会員に聞いて釣りを楽しんでもらえたことは、親子プラス他人とのコミュニケーションがはぐくまれた事業であったと思う。</p> <p>行政側:昔懐かしい釣り体験は初めての企画であった。参加者全員が魚を釣ることができ、大自然の中で遊びながら、魚をはじめとする生き物について学習することができ、大変有意義な教室であった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:より多くの市民に参加してもらい、釣れる魚は自然繁殖していることも理解してもらい、自然の恵みの有難さ、尊さを感じてもらいたい。それには楽しむことだけでなく、守ることも必要なことを教えたい。常に変化する川の状況に対応し、安全第一を考え事業を続けていきたい。</p> <p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子さかな釣り体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年10月26日(日) 場所:奥多摩フィッシングセンター
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	溪流釣りの未経験の参加者に、しかけ作りから一つひとつ順に指導して、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏の講義、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	196,601円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:12人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:協働事業として市民に対して事業を行なうことにより、行政、参加団体が自分達の事業分担をしっかりと行なう事が出来、その事業で伝えたい事、行動してもらいたいことなど参加市民により強く伝えられ、さらに広域に浸透し、効果をあげる事が期待出来る。魚を釣ることにより、魚は命ある動く生き物であるという事を竿から感じてもらえたと思う。</p> <p>行政側:協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:想像した以上に指導者に頼る参加者が多いので、親子魚釣り教室となっている様に親子の絆を強める為の事業でもあるため、要点は教えてもその後は親子で協力して魚を釣るようにしていきたい。釣り上げた魚を食べることにより、人間は生かされていることもさらに強調して、命の大切さも伝えていきたい。</p> <p>行政側:無原則に竿の持参を認めると、「教室」の趣旨から離れ、単なるレクリエーションになってしまうことが懸念されるため、使用する竿の数は親子で1本を基本とした。今後も、自然環境への関心が深まるよう、事業内容について充実させていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼうin霞川part6	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月26日(土) 場所:今寺天皇塚水田近くの霞川(天本橋周辺)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	手製のいかだで川を上ったり下ったり、子どもたち自身でいかだを操る川遊び。
(5) 事業経費(決算額)	124,043円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、いかだ作りと操作指導講師ほかボランティア含め21名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：(1)参加者募集が広報で行えることから参加者も集まりやすい、今回も定員に達する応募があった。(当日数人の不参加はあったが)(2)経費について、いかだの材料も消耗品的な材料もあるが、経費助成があることは心強い。(3)今年も第三中学校の生徒さんがボランティアとして参加してくれましたが、市との協働ということで学校側も気持ちよく引き受けてくれている。これは消防署の協力にも言えるかもしれない。</p> <p>行政側：事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。 実施団体である霞川くらしの楽校は、霞川とその周辺の自然や文化、歴史等を題材に、地元に着した様々な事業を展開中であり、地域の認知度も高い。 今後も市民の視点に立ちつつ、市民団体ならではの斬新かつ有益な事業提案に期待している。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:課題1・河川敷の草刈り・・・子ども達の安全対策の為、会場になる河川敷全面の草刈りを西多摩建設事務所さんをお願いしているが、今回草刈りの影響で「カメムシ」が川から畑に移動し困ったと農家の方から苦情が申しこまれた。因果関係は判らないが今後草刈りについては時期・刈り取りの方法など話し合う必要がある。 課題2・異常気象の関係からか、記録的な暑さが続き、当日も厳しい暑さであった。今後も熱中症対策に万全を期する必要がある。</p> <p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業を参加してもらうための工夫が必要であると感じた。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川の中で遊んじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年7月12日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした遊び方自由の水辺体験。
(5) 事業経費(決算額)	74,110円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、ボランティア含め8名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 広報による宣伝の力は大きい、昨年参加した人たちも再開催の報に多くの参加者は今回も保護者を含めると100人を超えた。			
行政側 荒天にも恵まれ、たくさんの参加者が集まった。終了時間まで遊んでいた光景をみると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 課題1 駐車スペース・・・他の協働事業でも同じであるが、会場が不便なところである、難しい問題ではあると思うが駐車場について考えたい。課題2:トイレ問題・・・これも他の事業に共通することだがトイレが遠く不便である、何か解決はないものか。(レンタルトイレ) 課題:3 熱中症対策・・・夏場の炎天下での活動、極暑対策としてタープを調達したがもうすこし広い面積に日陰をつくる必要がある(タープの追加)。			
行政側 霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	川で何でも遊んじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年9月20日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚とり、虫捕りなど)。
(5) 事業経費(決算額)	22,839円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員6名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 広報による募集は広く行きわたる。長期予報では傘マーク、当日は曇り空で肌寒い日であった、参加者があるのか？心配の極み、しかし時間とともに集まり40人程集まった。主催者側としてみれば一安心。</p>			
<p>行政側： 曇天の割にはたくさんの参加者が集まった。川の中だけでなく草原の昆虫を採る子どもたちもいて、幅広い自然観察教室となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側： 課題1・へび・蜂などへの対応・・・会場は草藪が多いへびや蜂はつきもの噛まれた時、刺された時の対策をしっかりとしておく。 課題2・トイレ・・・会場近くのグラウンドのトイレをお借りするが、100m以上離れており、子ども達には大変、今回のように気温の低い中に水の中、生理現象も近い、レンタルトイレの検討も必要ではないか。</p>			
<p>行政側： 霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月24日(土)、平成26年11月8日(土) 場所:青梅市役所仮設駐車場、青梅市役所西側(正面玄関前)
2継続事業	
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	里親会を実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、いのちを考える会・青梅 参加人数: 5/24 20人、 11/8 24人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:当日の運営 行政側:広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	2	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
市民側 市の広報等による里親会の周知が効果的であった。ペットショップではなく、保護団体から迎えるという選択を積極的に市民に行ってもらうには、行政が里親会を主催する意義として大きいと思う。			
行政側 ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 里親会に出せる猫の数、合同里親会の継続性、年間の開催回数が課題である。ボランティアグループの差がありすぎて、行政として何をしたいのかが分からない。出品する猫に対してのルール作りや、行政側として猫をどうしたいのか等、具体的な意見を聞きたい。動物愛護法を守った里親会であってほしい。「ワクチン接種」と「青梅で保護」を持ち込める猫の最低条件にしてほしい。高齢者が死亡や入院などで飼えなくなった成猫に対応する合同里親会であってほしい。			
行政側 周知方法を検討し、多くの市民の参加を期待したい。また、市と協働の里親会でのルール作りも必要と考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護啓発映画上映会	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年3月29日(日) 場所:青梅市役所2階204～206会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(4) 実施内容(実績値等)	ドキュメンタリー映画「みんな生きている～飼い主のいない猫と暮らして～」を上映した。上映後、参加者に各団体の紹介を行った。
(5) 事業経費(決算額)	36,622円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、いのちを考える会・青梅 参加人数: 54人
(3) 協働の提案者	1. 行政からの提案 2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	飼い主のいない猫についての周知も目的としているため、青梅市飼い主のいない猫譲渡事業補助金の交付対象団体であるおうめ猫の会と協働で実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:映画上映後、各団体の紹介を行った。 行政側:上映会の設営、実施

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政が働きかけているのがよかった。この映画を通じて、TNRの大切さと地域猫として見守るという方法を認知してもらえたと思う。多数の市民の方々に猫の問題を考えていただけた。市民の方にボランティア団体を認知してもらえた。</p>			
<p>行政側 ボランティア団体と協働で実施することで、市民に動物愛護について、また、市内の猫の問題に目を向けてもらう機会が持てた。各団体の活動内容も紹介することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 映画の内容が課題。猫の問題をテーマにした映画が少ない。映画だけでなく、先駆的な行政の職員や動物愛護の専門家を講師に招き、地域猫セミナーを開いてみてはどうか。4グループあるボランティア団体の意見を全体会議で聞いてから、行政は何をすべきか考えてほしい。</p>			
<p>行政側 映画の選定は難しい。今後もボランティア団体の意見を聞いて選定していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 1回目 平成26年4月25日～平成26年7月20日 2回目 平成26年10月1日～平成27年1月31日 場所: 市内各所
2継続事業	
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	実施予定頭数 1回目 80頭、2回目 115頭
(4) 実施内容(実績値等)	手術実施頭数 1回目 78頭、2回目 115頭
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: いのちを考える会・青梅、おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」 参加人数: 30人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠が利用できることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	2	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 不妊・去勢の猫の数を増やすことができた。事前連絡がなく、突然さくらねこチケットが渡されたが、お金のない人たちにはありがたいチケットだった。飼い主のいない猫の不妊手術代を負担することができない餌やりは多い。どうぶつ基金のチケットがないとTNRは進まない。野良猫の繁殖問題が解決されて安心された市民は多いと思う。</p>			
<p>行政側 行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施することができ、青梅市の野良猫対策の大きな前進となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 捕獲する会員の人出の確保、市民に対する「さくらねこ」の周知が課題。市民のためのチケットであるなら、広報でPRすべきであり、ボランティアに丸投げするのはおかしい。行政枠であるなら、もっと行政が力を入れて取り組んでほしい。青梅市が行っているのはボランティア団体への丸投げであり、協働とはいえない。</p>			
<p>行政側 今後もボランティア団体とともに協働事業を進め、多くの野良猫に不妊・去勢手術を実施したいと考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月19日(土)、6月21日(土)、8月23日(土)、10月18日(土)、12月20日(土)、平成27年2月21日(土) 場所:青梅市新町市民センターほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市の財産である、青梅市の自然について、市内の子どもたちや保護者に伝え、自然環境についての理解、環境活動への視野を広げる
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自然観察、農業体験、リサイクル活動等を通じて、自然環境についての理解を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	平成26年度は6回実施し、子ども138人、保護者95人が参加した。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 民立おうめ楽校 参加人数: おうめこどもエコクラブ 各回3~5人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講座当日の事前準備・運営、年間計画の立案、エコクラブ組織の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 広報をしていただいたおかげで、多くの青梅市民に周知できました。また任意団体のため、団体住所が代表宅、連絡先も代表個人の携帯電話ということから、連絡窓口をメールしか持っておらず、また昼間の連絡がスタッフの仕事の関係でとりにくいこともあり、苦勞している部分がありました。昼間の市役所での電話対応や訪問できる住所があり、参加者の方に安心感を与えられたこと、また迅速な対応をとることができました。そして青梅市と協働ということでの親御さんの信頼度もあり、はじめて参加の方も参加しやすかったと聞いております。事前準備では、会場の手配、物品準備、下見などフォローしていただきました。当日の講座も、受付を中心にお手伝いいただいたおかげでスムーズな運営ができ、大変助かりました。また組織立てについてもご相談にのっていただき、大変参考になりました。</p>			
<p>行政側 団体と協働することにより、子どもに対する環境教育を実施することができ、有意義であった。おうめこどもエコクラブのスタッフは、優秀かつ活動的で人間味があり、質の高い事業が実施できた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 青梅市が周知をしていただいた結果、現在50名の会員がおり、50名とともにどのように行っていくかの組織立てや、会員が一定数以上増えた場合の対応が昨年は問題でしたが、今年度は改善策をたて対応しております。より多くの青梅市民が環境教育を学べる体制作りをし、学んだ子どもがスタッフになり、団体を支えていくような持続可能なしくみ作りが目標です。みんなで支え合いながら子どもを地域が育て、青梅市の環境を守っていくかたちを最終的には実現したいです。(そのために今年度は助成金を申請しました。)また今後は青梅市の持っているネットワークをもっと活かし、講座内容や講師選定をより市に密着したものにし、青梅市のことをより学び考えられる講座にしていきたいと思っております。 これまでの活動を通し、環境教育をうける機会を市民から市民へと提供するエコクラブの取組みは、新しい地域活性の手法として成功しつつあると思います。またどのような形であれ青梅市と関わりを続け、行政の想いも込められた”おうめこどもエコクラブ”と市民に認識され続けることは、官民一体となった環境教育政策として、地域のつながりや協力体制を保つためには有効であると思っております。よって今後も、環境政策の課題と展望を青梅市と共有し、必要に応じて協力し合いながら、活動していきたいと思っております。</p>			
<p>行政側 今後もおうめこどもエコクラブと協働で、子ども向けの環境教育を実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「ごみ収集カレンダー」の音声化事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に「ごみは、資源である」という認識をしていただくため、青梅市における正しいごみの分別方法とリサイクル方法についてを音声版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成23年4月発行の「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」の変更箇所および平成26年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声版(デージー図書)の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績3人。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:朗読ボランティアグループみすず会 参加人数:11人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	朗読ボランティアグループみすず会からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:CDに音声データを収録し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へダビングしたCDを配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用者からは、今日は何のごみの日と確認できて喜ばれている。また、ごみの分別もわかりやすいとのこと。</p>			
<p>行政側 視覚障害者向けの点字版も作成しているが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、読める方は視覚障害者の1割程度とのこと。それに対し、音声版のCDは専用の機器またはパソコンがあれば簡単に聞くことができ、より多くの視覚障害者に配布が可能となっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 1枚のCDを作成するには、PC上で録音、編集、校正等の作業があります。この作業をボランティアで毎年実施するには、大変な労力と経費を必要とします。(CDのレーベル印刷、インクジェット代等)作業料、インクジェット代を市側で負担してほしい。配布方法等のPRも後方、窓口等でたえず呼びかけてほしい。</p>			
<p>行政側 利用者の意見も聞いて改善点があれば直して行く。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	-----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 講習会 平成26年5月24日、5月26日、10月17日、10月18日 勉強会 平成26年6月28日、11月29日 場所: 講習会 市役所玄関前ロータリー、2F喫茶コーナー横テラス、勉強会 2F会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用してたい肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	モニター申込み 計 58 人
(4) 実施内容(実績値等)	モニターに対して家庭で簡単にできる生ごみたい肥化方法を直接指導し、その後、勉強会、電話相談等でフォローする。これにより生ごみの減量、資源化を促進する。
(5) 事業経費(決算額)	96,079円(ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅・生ごみグルグルネット 参加人数: 5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	たい肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会・勉強会の進行・会場準備 行政側: 広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市が広報で募集を行うことで応募への安心感がある。又多くの市民にPR出来る。モニターの堆肥の受け入れが可能になった。</p>			
<p>行政側 毎年コンスタントにモニターへの応募があり、アンケート回答でも多くの方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 モニター応募人数を増やすことが課題である。講習会後の勉強会に来たモニターに紹介を頼む、畑でのPR方法を考える等工夫したい。又堆肥の受け入れ件数も伸びないため、出前講座などで集合住宅の方の参加に繋がるようにしたい。</p>			
<p>行政側 平成26年度から平日にも講習会を実施し、参加者の半数が平日での参加であった。今後も平日参加者のニーズを鑑み、継続して行っていきたいと考える。 また踏襲してきたことだけに拘らず、参加者が増えるようなプランは、引き続き検討していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成26年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。 実績3人。
(5) 事業経費(決算額)	4,055円(点字プリンター用紙)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅点訳グループ 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 希望する人に期限までに作成し、届けることができた。			
行政側 視覚障害者の中で少数派ではあるが、点字可読者にとって有益である。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 自分たちでできること、役割はできていたと思うが、利用者の方々にさらに提供できることを、行政側と話し合っていきたい。			
行政側 点字プリンター用紙の費用については市の負担とした。 点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢介護課 高齢者支援係
------	------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所: 市内一円
2継続事業	
(2) 事業の目的	市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	民生児童委員や地域住民により、地域に住む高齢者等の見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。
(5) 事業経費(決算額)	必要経費はありません。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 民生児童委員合同協議会 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	民生児童委員は、地域に密着して活動しており、地域における高齢者等の社会的弱者をよく把握しているため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域で見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側: 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 民生児童委員や地域住民が見守り活動をすることで、地域に安心感を与えることと同時に、見守っている側の地域住民も地域に見守られているという安心感があり、地域全体に安心の輪が広がった。</p>			
<p>行政側 民生児童委員や地域住民の協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、地域住民自身が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力のアップや地域のつながり強化が図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 多忙な民生児童委員の見守り活動には限界がある。</p>			
<p>行政側 民生児童委員や地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるが、同時に民生児童委員の負担軽減を行う必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年9月から11月 3か月間 場所:市内の自治会館
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	平成26年度支出済額 364,151 円委託料(その他委託料)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:高齢者クラブ(3か所) 参加人数:延べ 135人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため	団体からの提案:なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:会員への周知、会場準備 行政側:ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、10m歩行速度)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側 健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側 介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月から3月 場所:利用を希望する団体・グループ等が確保した会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	サポーター数 延べ331人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 認知症の基礎知識(認知症とは何か、認知症の症状とは)、早期診断・治療の重要性、権利擁護等 2. 認知症の人への対応、家族への支援、サポーターとしてできること等
(5) 事業経費(決算額)	平成26年度支出済額 16,450円需用費(消耗品費)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:市民の地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者等 参加人数:延べ331人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:	平成18年7月厚生労働省老健局長通知により、本事業の推進を図るため。 団体からの提案:参加団体の年齢層により、研修内容を変えて欲しい。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:研修を希望する団体・グループ等は、申込および会場の確保や準備、機材の用意等を行う。 行政側:キャラバン・メイト講師派遣、事業実施計画申込と副本の申込

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくり。			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていく。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:特になし			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう、小・中学校、総合高校、多摩高校に呼びかけていきたい。また、商店街や企業、介護保険施設へも呼びかけていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	---------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月から3月 原則として毎週水曜日実施 場所:介護保険施設等または居宅
2継続事業	
(2) 事業の目的	介護保険施設等または居宅を訪問し、介護サービス利用者等の話を聞き相談に応じる等の活動を行う相談員を派遣することにより、介護サービスの実態を把握し、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質的向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	延べ171回 554人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 介護保険利用者および家族からの相談等に応じるため、介護保険施設等および居宅を訪問すること。 2. 介護サービス提供事業者等への働き掛けをすること等
(5) 事業経費(決算額)	平成26年度支出済額 1,291,492円報酬(非常勤職員報酬)21,676円旅費(費用弁償)106,000円負担金、補助および交付金(負担金)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:一般市民公募 参加人数:5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成12年4月介護保険法が施行され、介護サービス適正実施指導事業の実施を図るため。	団体からの提案:なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:介護保険施設等または居宅を訪問し、介護保険利用者および家族からの相談等に応じる。 行政側:介護サービス相談員が、相談等に応じた内容について、困難事例等施設やケアマネジャーに対し対応報告することにより解決する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:介護保険施設等においては、介護サービス利用者の不安、不満、疑問等にきめ細かく対応することで、苦情に至る事態を未然に防止するための働きかけを、介護サービス提供事業者へ行うことができる。また、利用者と事業者へ橋渡しを行っていくことにより、介護サービスの改善が図られ、介護サービスの質の向上・適正化に貢献することができる。</p> <p>居宅では、利用者の孤立や不安の解消を図ったり、適切な情報提供を行うことで介護サービスの適正な利用につなげることができる。</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員について周知するとともに、特に居宅訪問を増やせるよう、強化していきたい。月1回開催されている連絡会(相談員、事務局)についても、報告以外に情報共有・提供の場とし継続していきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:介護サービス相談員の研修は、年1回現任研修がある。それ以外に市職員による、介護保険サービス全般、介護保険制度、介護保険料、関連機関(後期高齢者医療制度、国民健康保険制度、生活保護法等)についても行っていきたい。</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員のスキルアップ、共有すべき事項もあるため、相談員、事務局、関連機関との連絡会も必要に応じて行っていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成18年8月から年2回開催 場所:青梅市役所会議室、青梅市福祉センター集会室
2継続事業	
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 23,000円(予算額23,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数:6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	団体からの提案:
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側:体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側: ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。			
行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 : 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。			
行政側 : 虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。 ①緊急一時保護先の確保 ②高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	担当課	障がい者福祉課庶務係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成26年11月29日(土) 場所： 東武動物公園
1単年度事業	
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市障害者団体連合会との協働事業とすることにより、よりよい見学先を選定することで、多くの障害者の参加を得る。
(4) 実施内容(実績値等)	大型バス2台を借り上げ、東武動物公園を見学した。71人の参加を得た。
(5) 事業経費(決算額)	参加者負担額:122,850円(入場料、保険代、車中お茶代等) 青梅市負担額:270,000円(大型貸切観光バス代(2台分)、有料道路代)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市障害者団体連合会 参加人数： 1名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていた。このため、平成25年度からは協定を締結し、協働事業として位置付けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 見学先の選定、参加者の受付、当日の運営等 行政側： バスの借上げ、広報おうめへの記事掲載、申込用紙の作成、参加者の受付、しおりの作成、当日の運営、清算業務等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 他障害の方や家族で交流する行事はとても必要であり、障がい者福祉課と障害者団体のお互いの交流が有り、話し合いも有りで、多くの人に参加でき、当日の進行も障がい者福祉課と障害者団体との交流がスムーズに協働でできました。</p>			
<p>行政側 限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定をいただいたことにより、多くの参加者を得ることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 参加者の当日の体調の都合で、市職員の方に迷惑をかけたか、それがどこまで許せるのか役員は考えさせられた。団体行動にどこまで責任を持たされるのか(時間と決定報告)、車椅子など障害者の行動範囲の必要性をどこまで考えるのか。役員と参加者の密度がとても大事に思えた。</p>			
<p>行政側: 現地到着後降雨があり、傘を持参されなかった方うち、雨がやむまでレストランで待機された方もいたので、今後は現地での降雨があることも考慮して見学先の選定を行いたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お助けマン養成講座開催	担当課	障がい者福祉課相談支援係
------	-------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年7月11日(金)、平成26年11月27日(木) 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市地域自立支援協議会の「障害者への理解と啓発部会」が、障害者に手を貸したいと思っても方法がわからずにいる方々、助けを求めたくても求められない方々の意識の掘り起しをすることを目的に「お助けマン養成講座」を実施しました。コンセプトは「輝くブルーハートキャンペーン」とし、市民のハートを開く、青梅の心＝ブルーハートにちなみ、付けられました。青梅市社会福祉協議会や市内の障害者支援施設の協力のもと、年2回実施し、1回の定員を30名とする。講座修了者には特製キーホルダーを渡し、それが目印となって、障害者の方が声を掛けやすいように配慮している。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間60人を目標に養成する。
(4) 実施内容(実績値等)	第1回22名 第2回21名
(5) 事業経費(決算額)	キーホルダー購入経費 27,324円、キーホルダー用ビニール袋 165円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市障害者地域自立支援協議会、青梅市社会福祉協議会(協力：友愛学園成人部、東京青梅病院、青梅市自立センター) 参加人数：第1回3名 第2回3名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市は施設や病院が非常に多い地域であり、どの施設でも歴史が古い。そのため専門性の高い熟練した福祉職が多いということであり、それは青梅市の地域資源であると考え、その資源活用を頼みとして企画した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側 企画立案、講座講師、体験講師、キーホルダー購入準備等 行政側：講座開催場所確保、開催通知送付、広報周知、キーホルダープレゼンター等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:協働で開催することで、市民の要望を把握しやすく、要望を反映させる形でスムーズに事業が実施出来た。また、多くの市民や市内施設の職員に参加いただき、障害者の理解の推進に寄与出来た。</p>			
<p>行政側:協働により、市民からの意見を反映して事業が実施できた。また、関係者からの声かけにより、多くの市民に参加していただき、障害者の理解の推進に寄与した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:今後は、市内企業・学校にも参加を呼びかけ、幅広い層への障害者理解の推進に努める。</p>			
<p>行政側 今後は、市内の企業やスーパーなどの大型販売店、JRや学校にも参加を呼びかけ、多くの市民の方に障害者理解の推進に努める。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市入門・初級手話講習会	担当課	障がい者福祉課認定サービス係
------	---------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月15日から平成27年3月19日 場所:青梅市福祉センター集会室
2継続事業	
(2) 事業の目的	1 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること 2 日常会話の技術を習得すると共に、ろうあ運動の歴史、聴覚障害者の活動について学ぶ 3 手話を学ぶことによって、福祉に関する関心を高め、地域福祉を推進すること
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	入門講習会60名(3回) 初級講習会40名(30回)
(4) 実施内容(実績値等)	入門:簡単な挨拶、名前、数、色などについて手話でやり取りを行い、手話でのコミュニケーションに慣れる。ゲーム方式などを用いて興味の湧きやすい内容にする。 初級:手話による日常会話ができることを目的とし、テキストの内容に沿って講習を進める。また、グループ学習や聴覚障害者協会関連の行事に参加することにより、聴覚障害者の生活・文化についての理解を深める。
(5) 事業経費(決算額)	講師報奨金 165,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市聴覚障害者協会 入門講習会30名 初級講習会 40名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者の事業として実施されていたが、以前から協力依頼があったため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:青梅市聴覚障害者協会が講師・ろうアシスタントを担い、手話サークルが健聴アシスタントを担う 行政側:講習会会場の確保、講師報奨金の助成、講習会資料のコピー依頼

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 「広報おうめ」に「共催青梅市」と掲載したことで、一般市民に手話や聴覚障害者への理解を広めるという 目的に信頼感があり、他地域の講習会より定数が多い。障がい者福祉課との相談等でコミュニケーションを図ることができ、行政とのパイプを作ることができている。			
行政側 聴覚障害者への理解の深まり、地域福祉推進への寄与			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 「手話は言語である」ということへの理解を広めるために全国的に運動を展開しており、講習会の在り方についても見直していかなければならない			
行政側 初級手話講習会修了者の中級手話講習会への移行			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第45回おうち健康まつり ※「市民健康の集い」から「おうち健康まつり」へ名称変更	担当課	健康課健康推進係
------	---	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月18日(日) 場所:青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自分の健康は自分で守るという自覚もち、健康づくりに取り組むためには保健衛生知識が必要である。おうち健康まつりの企画において医療関係者による保健衛生知識の普及向上を行うことで、より効率的に市民の健康づくりが促進される。
(4) 実施内容(実績値等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬・ペットなどの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養、転倒予防教室、ウォーキング教室、青梅の森企画My箸を作る教室、親子ふれあい体操教室等や医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会を実施した。※延べ参加人数7,804人
(5) 事業経費(決算額)	有り 医師等報償金 404,020円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名(参加人数):青梅市三師会(18人)、東京都獣医師会多摩西支部(2人)、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩(7人)、青梅市接骨師会(12人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	昭和45年から実施しており、理由は不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 来場者に対し専門的(医師等)な立場から情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。</p>			
<p>行政側 医師など専門的知識を有する者と協働することにより、来場者(市民)へより多くの情報を提供することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、更なる健康づくりが向上するよう検討していきたい。</p>			
<p>行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市子ども・子育て会議事業	担当課	子育て推進課子育て推進係
------	----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月24日、5月23日、6月20日、7月18日、8月29日、10月7日、10月28日、11月14日、平成27年2月13日 場所:青梅市役所
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市子ども・子育て支援事業計画に関する事など、子ども・子育て支援に関し市長の諮問に応じ、調査審議し答申を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	会議を7回開催し、市長の諮問に答申する。
(4) 実施内容(実績値等)	市長から諮問を受け、平成25年度に引き続き会議を9回開催した。平成26年11月14日には市長に答申した。
(5) 事業経費(決算額)	1,122,413円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市保育園理事長会、青梅市保育園連合会、青梅私立幼稚園協会、青梅市小学校校長会、青梅市社会福祉協議会、青梅商工会議所など 参加人数:12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子ども・子育て支援法の規定にもとづき市条例により設置した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市長の諮問に対し、調査審議する。 行政側: 青梅市子ども・子育て支援事業計画に関する事など、子ども・子育て支援に関し市長は諮問する。また、市長は答申を受け、計画を策定し事業を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 本市の人口減少や子育て家庭の現状について理解を深め、子ども・子育て支援事業計画案について検討・議論し、答申することができた。			
行政側 青梅市における子育てにかかわる多様な関係者が、現状や課題を共有するとともに、今後の進むべき方向性について議論し、理解を深めた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民の目線を大事にしながら計画の進捗状況の把握・評価、審議を行い、計画が確実に推進されるよう協力していく。			
行政側 協議結果として答申を受け、これにもとづき青梅市子ども・子育て支援事業計画を策定した。今後は、本計画を推進する必要がある、引き続き青梅市子ども・子育て会議から御意見をいただき、各施策に反映させるとともに、ともに協力し事業を展開していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 3,425人)
(5) 事業経費(決算額)	2,801,200円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人はあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 子育てに関する悩みや、その他の悩みなど、様々な相談などが多くなって来ているが、ほかのスタッフとのかかわりの中でヒントを得たり、納得したりと、不安など取り除けたと終始笑顔や会話が絶えないゆっつかりのんびりできる空間づくりが展開された26年だった。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 お母さんたちの声を聞き取りながら、より楽しめ、ストレス発散出来るイベントなど計画していく事を心がけたい。25年度に比べ来館者数が少し落ち込んだが、27年度は来館者数の増化を目標としたい。限られた予算の中での行事実施などについても現状は非常に厳しくなっている。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てひろばC型事業(にこにこ広場)	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	--------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週水、木、金曜日 午前11時～午後4時（年末年始を除く） 場所： 東青梅1-7-7 青梅こども未来館
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅こども未来館「にこにこ広場」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。(利用者数 1,518人)
(5) 事業経費(決算額)	1, 570, 290円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公募により、平成24年10月から市内NPO法人こども未来に事業委託し、ひろば事業C型として実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「にこにこ広場」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 周知のため青梅こども未来館の窓ガラス面に広場名・開館時間を大きく記載、また告知ボードも提示しPRに努めた。後期より、0歳児親子の利用者が増え、親子で初めて出かける場として認知されてきていることを実感。新年度からの保育園入園を控えている親子も多く、他の利用者との情報交換の場ともなっていた。また、発育・子育てに不安を感じている利用者もあったが、青梅こども未来館の立地が、行政の関連機関(健康センター・子ども家庭部)に隣接していることにより、専門機関へ繋げることがスムーズに行われた。</p> <p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施することにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 Web検索からの利用者が多くなっている為、ブログでの掲載内容の充実を図り更に多くの市民へここに広場を周知していきたい。 交替シフトでのスタッフ配置となっている為、共通認識に基づく対応が出来るよう、必要な確認等を常に行っていく。また、利用者ニーズに応えるためにスタッフ自身のスキルアップを図る。 乳児前期(3.4か月児)の利用が多くなり、月齢に必要なおもちゃが不足している。おもちゃは消耗品のため、予算を確保し補充していきたい。</p> <p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 771人 利用件数 1,863件)
(5) 事業経費(決算額)	6,539,844円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：最近では問題を抱えている家庭が多く、対応の難しさに苦慮しているケースが多い。提供会員さんが限られた中で、センター事業の行える範囲ギリギリのところでの対応で、利用者の所での対応で利用者の方々には感謝されています。また、地域交流会も徐々に根付いてきている。センター事業の役割などの理解、認知度についても少しずつだが向上している。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側：27年度は養成講座や地域交流会などのより一層の充実を図る。会員のフォローアップ研修、ファミリーサポート事業内容をより多くの方への周知の充実に重きを置きたい。サブリーダーの係わりについて検討していきたい。</p>			
<p>行政側 子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度・利用者増加に向けた周知方法の検討が必要である。 個々の事例について適切な対応を図っていけるよう支援に努めていく。</p>			

平成26年度分 協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2継続事業	
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容(実績値等)	子育てに特化したホームページの開設および運営(年間アクセス数 488,744 件)
(5) 事業経費(決算額)	1,634,870円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数:HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	①行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政担当者と内容や課題を打ち合わせを行うことで、より市民目線も加わったホームページになり、行政情報と民間の情報を分かりやすく提供できている。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 プログラムのバージョン変更でのリニューアルやより目をひくホームページとなるようにを取り組んでいきたい孤立しがちな子育て中の方が、ホームページを利用した交流(コミュニケーション)が広がることを目指したい。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加につながるよう取り組んでいく。 受託者側と「子育てねっと」を活用した子育てサークル等のネットワークの育成が図れるよう協議していく必要がある。</p>			

平成26年度分 協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2014	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 平成26年11月2日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業
(2) 事業の目的 子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等) 手作りおもちゃ、赤ちゃんコーナー、遊びコーナー、パフォーマンスステージ、ツリークルージング、子どもの模擬店、森の汽車、フェスタ10周年記念コーナー等(入場者数 1, 439人)
(5) 事業経費(決算額) 400, 000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：子どもふれあいフェスタ2014実行委員会(NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体) 参加人数：実行委員参加人数 20名(当日は、高校生有志の協力)
(3) 協働の提案者 1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側：補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民の団体の自立した運営に行政担当者が加わることで問題提起からの課題解決が速やかにできて、内容・プログラムや宣伝活動が豊かに出来ている。			
行政側 子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 永山ふれあいセンターという会場を活かしたプログラムや他事業との連携の検討も必要と考える。また、それも協働というスタイルで運営できると良いと考える。			
行政側 子どもたちや子育て親子の交流だけにとどまらず、異世代間交流の拡大を図っていくとともに、地域の伝統の伝承も考慮した事業実施の検討が必要と考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子のゆったりのんびりした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはーと、NPO法人子ども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数2,065人)
(5) 事業経費(決算額)	1, 059, 559円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： ローテーションにより開館中、常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ・地域や子育てに関する情報を得ることができることで、子育て中のお母さんたちの安心につながっている。 ・3団体に関わる中でそれぞれの違った特色を生かし、楽しい空間づくりができています。</p>			
<p>行政側 NPO団体の持つ得意分野を生かした子育て支援事業を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 短い時間を週1回という日数ではあるが、子育て中の親子に定着した広場になってい来ている。もう少し開館時間を長くしたほうがよい。</p>			
<p>行政側 今後も乳幼児の親子や小学生の安心・安全の居場所作りの場を提供できるよう心がける。</p>			

平成26年度分 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市次世代育成支援地域協議会事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 協議会(平成26年7月31日、平成27年1月29日) 場所： 市役所会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市次世代育成支援地域行動計画管理のための協議
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市次世代育成支援地域行動計画の進ちよく状況をまとめるため会議を2回開催。
(4) 実施内容(実績値等)	平成26年度における行動計画実施状況の検討(2回)
(5) 事業経費(決算額)	197,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市次世代育成支援地域協議会 参加人数： 12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	関連団体代表、有識者や市民が協議会の委員となり、次世代育成支援地域行動計画の進ちよく状況を検証するため協働する。また、部会をつくり、子どもの居場所づくりの検討も行う。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：関連団体代表、有識者、公募市民が協議会の委員として参加し、協議を行う。 行政側：協議会事務局となり、協議会の意見を参考に施策を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 次世代育成支援地域行動計画の進ちよく状況について、市民の目線で検討、評価を行うことが出来た。			
行政側 行動計画の実施状況の検証や課題等について、市民とともに協議することが出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 協議会の設置は平成26年度末までであり、その後の行動計画の進ちよく状況検証等は、子ども・子育て会議に移される。			
行政側 行動計画の実施状況の検証をもとに、今後の事業を進める必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課青少年担当
------	----------------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年2月1日(日) 場所:総合体育館
2継続事業	
(2) 事業の目的	青少年が地域活動に参加する機会や場を提供し、綱引き大会に親子で参加することで、親子のふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園児、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計100程度の出場チームにより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・接待・放送・選手・模擬店・会場・賞品係等による当日の大会運営を行う。
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会 参加人数:90人(当該団体のほか青梅市スポーツ推進委員協議会26人、日本綱引連盟公式審判員1人ほか総勢約130人の協力があつた。)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案:平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会として、全体の統一事業開催について検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側: 事務局として、大会の周知、出場チームの募集等の広報、実行委員会や組み合わせ抽選会等の準備をすること。大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 行政側が実行委員会事務局を担当して、予算の管理、青梅広報・ホームページetcによる参加チームの募集や受付事務や実行委員会・出場チーム対戦組み合わせ抽選会の会議の開催事務、大会に使用する物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。 当日の競技や模擬店等の大会運営は、スポーツ推進委員や綱引き連盟公式審判員、青少年対策各地区委員があたり、スムーズな運営を行う事が出来た。</p>			
<p>行政側： 大会前日の会場設営や当日の千数百人におよぶ出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導は、行政側スタッフだけでなく、役員や実行委員の協力を得て、事故なく行うことができた。 また、綱引き競技専用レーンマットの敷設や競技の審判、大会の進行などについては、スポーツ推進委員、綱引連盟公式審判員等専門のノウハウを持った市民の協力により、スムーズに行うことができた。 昨年の懸案だったごみの減量は、周知の徹底や役員、スタッフの使い捨て食器等の使用制限等の協力により、昨年の6割程度に削減できた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側： 青少年対策地区委員長連絡協議会の担当が、子ども家庭支援課で、各地区の青少年対策地区委員会の担当が市民活動推進課ということもあるのか、本部の指揮命令系統が確立していなかったり、庶務的なスタッフがいなかったり、スタッフの役割範囲が不明確だったり競技の進行以外での問題点が上がっているように思う。 引き続き、ゴミの削減を進めて行くとともに、運営体制の改善点も話し合った方が良いと思う。</p>			
<p>行政側： 広く市民に事業の周知を図るとともに参加者の拡大を図っていききたい。また、昨年に引き続き、大会を通じて、あいさつの励行やごみの減量等、単なるイベントにとどまらず、大会の質そのものの向上を図っていききたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課景観係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6/3、11/7(長野県上田市視察)、11/25、2/24、3/12 場所： 青梅市民会館、長野県上田市(視察)、住宅修景現地(住江町、西分町)
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で、講演会の開催や機関誌(風景通信)の発行、先進地への視察を行い、青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、景観形成重要資源修景についての研修への参加(1回)、景観まちづくりについての講演会の開催(1回)等
(5) 事業経費(決算額)	景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成)30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅宿の景観を育む会(会員15名) 参加人数： 各回10名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)
(6) 役割分担	市民側： 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側： 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 景観まちづくりに関する講演会等を通して、青梅駅周辺景観形成地区における景観形成について、地元住民および市職員の理解が深まり、相互の意見把握や協力ができる。また、女性2名も参加しているので、男性・女性のそれぞれの視点から意見が出せる効果がある。</p>			
<p>行政側 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知を進めた。また、景観先進地への視察や景観まちづくりについての講演会を実施し、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。協働で進めた結果、新たな景観形成重要資源指定を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 建物の保存について、所有者自身の理解・協力は得られるが、世代が代わることを考えた際に、後継者の理解が得られない事例が多い。また、建物を保存していくのに必要な改修について、市の景観形成助成金確保の手続きの関係から、翌年度以降まで工事ができない事例がある。 景観まちづくりは長期的な視点が不可欠となるので、後継者の育成や、協議会活動や工事等に必要な資金の確保が課題となる。</p>			
<p>行政側 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るように進める必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期 間： 6月および9月第1日曜日（9月第1日曜日 前日降雨のため足場悪いため中止） 場 所： 大塚山いこいの森（大塚山公園隣接する土地）
2継続事業	
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	予定：年間参加人数 延べ250人 ⇒ 実績：参加人数 延べ 120人
(4) 実施内容(実績値等)	この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、必要な管理を行うものとする。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 4,536円 ・ 食糧費 18,000円 合計 22,536円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会（近隣5自治会・4小PTA・第8青少対） 参加人数： 120人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望により、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図り相互の管理区分により地元等ボランティアにより清掃、下草刈り等を行っている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等（植栽育成に必要なこと） 行政側： 管理区分の清掃、下草刈り等（植栽管理に必要なこと）および施設全体の管理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つことができた。 植栽樹木も根付きも良く、育成状況も良好である。また、市立第四小学校の校外学習の場として幅広く利用されている。			
行政側 ボランティアと協働で清掃および下草刈りを行い、市の管理区分（柵外の危険箇所）については、別途草刈りを実施した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 参加人数の確保 作業道具等の不備 中心となる組織がない			
行政側 全体の施設（外柵や階段）が木製で腐食のため、修繕が必要となる。 樹木が生長しているため、枝払い鋏や鋸等の作業道具が必要となる。 樹木の剪定、間伐等を行うために、管理計画および専門業者等への作業が必要となる。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間： 毎月第3土曜日(8月を除く) 場所： 永山公園内ボランティア管理緑地および新田山公園</p>
<p>2継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 環境保全保護に努め、安全で快適な公園を市民に提供する</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 延べ125人</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等) 萌芽更新等を目的とした間伐、下草刈および枯損木伐採等</p>
<p>(5) 事業経費(決算額) 講師報償金 219,000円 ・ 消耗品費 76,609円 ・ 食糧費 34,593円 保険料 11,250円 合計 341,452円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 3.事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 25人(登録人数)</p>
<p>(3) 協働の提案者 1行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市の公園・緑地内等において、市民が下草刈りや間伐等の緑地管理作業等を行うことにより、市民自ら公園・緑地の大切さを実感し、ボランティアによる自主的な緑地管理運営を図る。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担 市民側： 下草刈り、間伐、枯れ枝除去、樹木等の調査 行政側： 場所の提供、作業補助、準備</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 伐採した切株からの萌芽更新、実生から育った幼木も多数あり、新しい森として再生していること。 管理緑地内の再生をさらに広げていきたい。			
行政側 萌芽更新、実生からの育成は、これからの新しい森づくりとしての見本としたい。 管理緑地内の再生をさらにボランティアと供に広げていきたい。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 会員の高齢化による作業の難化 会員の増員・随時会員の募集			
行政側 会員の高齢化による出席者減少 ⇒ 会員募集(随時)をかけて、若い世代の参加者を増加を図る。 範囲を広げる場合、伐採に対して多額の予算(搬出・処分費)を必要とすること			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森柚保プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課計画係
------	----------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成26年4月から平成27年2月 場所： 青梅の森
2 継続事業	
(2) 事業の目的	青梅の森およびその周辺で市が管理する地域において、保全活動等を行う各種団体等と青梅市が協働で青梅の森保全事業を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅の森事業計画にもとづく、管理運営、青梅の森の周知および人材育成を図るための体験講座等の企画・運営、その他青梅の森の運営に必要なことで青梅市が認めたこと等を推進する。
(4) 実施内容(実績値等)	体験講座等8回、観察会1回、一般参加者延べ人数84人
(5) 事業経費(決算額)	26,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、青梅さとやま散歩の会、森林ボランティア森守会、青梅永山丘陵の自然を守る会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森・ひさかきの会、青梅の森いきものネットワーク 参加人数：約50人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森事業計画にもとづく運営組織を設置(組織名：柚保プロジェクト[9団体で構成])
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に()
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	2
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 情報の共有化が図れて良い。			
行政側 協働事業にて体験講座等を開催し、市民が参加することにより、「青梅の森」が自然と人が共存できる里山として身近に感じてもらえるとともに保全活動の必要性や関心も深まる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 行政側の負担を軽減するような仕組みが必要。			
行政側 ・事業内容、時間帯、頻度、募集方法を検討する必要がある。 ・広報掲載、応募受付対応、準備、運営、事務局側の負担も多い。 ・杣保プロジェクトが自立できるようなシステムにすること。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市梅の公園 花木苗の植栽ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	-------------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成26年11月29日（土） 場所： 青梅市梅の公園
1単年度事業	
(2) 事業の目的	ウメ輪紋ウィルスにより、梅樹が全伐採された梅の公園において、青梅市梅の里再生計画に基づき梅の里のシンボルでもある『梅の公園』再生への足がかりとして、3月を中心に咲く花木苗を植栽することで、『吉野梅郷花まつり』を盛り上げる演出として市民等に提供する
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	参加予定人数 150名
(4) 実施内容（実績値等）	・植栽樹種および本数（平坦地および緩斜面での植栽） ゲンカイツツジ 120本・ユキヤナギ 456本・レンギョウ41本・ヤマブキ 20本 ニホンスイセン 6000球
(5) 事業経費（決算額）	梅の公園低木植栽 4,104,000円（花木苗調達、植栽準備、植栽補助、残植栽等） 青梅市観光協会 飲み物、タオル 青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会 軍手、スコップ等

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 地元自治会ほか 参加人数： 81名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅の里のシンボルでもある『梅の公園』再生への第一歩として、3月を中心に咲く花木苗を植栽し、市民等の協力により『吉野梅郷花まつり』を盛り上げる。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 花木苗植栽 行政側： 花木苗の植栽準備、植栽補助、片づけ、維持管理

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 地元住民を中心とするボランティアが梅の里のシンボルである『梅の公園』の早期再生を願い、観梅時期に開花する中低木の苗木等を植栽することができた。			
行政側 『青梅市梅の里再生計画』に基づき梅の里のシンボルでもある『梅の公園』再生への足がかりとして、3月頃に咲く花木苗を中心に植栽することで、『吉野梅郷花まつり』を盛り上げる演出することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 再び梅が植えられるまで間、『梅の公園』の梅樹以外の植栽等のアピール方法の検討、梅樹植栽に向けての準備等が必要である。			
行政側 植栽された、今回植栽した花木苗、また今後予定する梅樹の育成等について、維持管理をより効率的かつ効果的に行っていくための手法を検討していく必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年6月1日～30日 場所:吹上しょうぶ公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	述べ活動人数 96人
(4) 実施内容(実績値等)	しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数 96人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 63,213円 講師報償金 16,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数:24人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ガイドの実施 行政側:講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
話合いは出来ても、お互いの立場の主張ではなかなか難しい。			
行政側			
ハナショウブに関する豊かな知識を活かし、来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
お互いの立場を認め合っでの譲り合い、協力体制が出来れば、もっとよくなると思う。			
行政側			
よりよい体制等について、引き続き協議していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	-----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年3月8日～4月5日 場所:梅の公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	述べ活動人数 32人
(4) 実施内容(実績値等)	梅まつり有料期間の来園者へのガイド (述べ活動人数 47人)
(5) 事業経費(決算額)	6,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:梅の公園ガイドボランティア 参加人数:15人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅の公園有料期間中の利用者サービス向上
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ガイドの実施 行政側:講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 開催中、お互いの情報交換が少なかつたように思います。			
行政側 来園者に梅の公園のガイドを実施してもらうことでサービスの向上となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 お互いの話し合いの場がもっと頻繁に有れば情報の交換が出来ると思います。			
行政側 梅の無い中、これまでの様子や他の植物についてガイドしてもらった。今後の梅の公園ガイドボランティアについて、引き続き話し合っていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林課林務係
------	--------------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年6月14日、8月9日、10月11日、12月6日、平成27年1月10日、3月14日(計6回) 場所:青梅の森 他
2継続事業	
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図り、適正な森林整備を行う。 また、平成22年度からは杉並区との間で協定を締結し、共同で実施することで講座受講者の拡大を図っている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間6回の講座開催。 講座受講者30人(青梅市15人、杉並区15人)×講座回数6回=180人
(4) 実施内容(実績値等)	講座は2年を1期として実施し、平成26年度は第7期の1年目として実施。 講座内容は、下刈り、間伐、道づくり、枝打ち、植栽等。
(5) 事業経費(決算額)	決算額815,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人 青梅林業研究グループ 参加人数:毎回10人程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っている特定非営利法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講座内容の決定、資材の準備、当日の実技指導 等 行政側: 講座受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 様々な情報から参加者が森林に対して、何かしなければならぬという意識が高まっている中で、森林作業体験をすることにより実感を高めることができ、また青梅の森の保育保全も進んだ。</p>			
<p>行政側 森林施業に対する専門的な知識、技術があり、また森林ボランティア育成講座以外にも多くの場で指導を行っている青梅林業研究グループは委託先としてふさわしい。受講者からも丁寧、親切な指導に対して感謝されることが多くある。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 森林に対する知識と実技をスキルアップするために、様々な手法を取り入れていく必要があり、今後も引き続きご指導いただきたいと思います。またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。</p>			
<p>行政側 講座受講者を中心にボランティア団体「森守会」が活動しているが、さらに多くの方に加入していただくことが求められる。また、継続した活動とするために、現在は比較的高齢の方に偏っている講座受講者の年齢分布をいかに広げるかが課題となる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:毎年度 場所:市立小中学校
	1単年度事業、2継続事業
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 参加人数:市民 約400人(各学校合計)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:学校の依頼にもとづく支援 行政側:学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 学校の都合で日時が限定される。			
行政側 図書室整理などではなくてはならない存在となっている。(登録約400人)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2014～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年5月10日(土)、11日(日) 場所:釜の淵公園、釜の淵市民館、郷土博物館
2継続事業	
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験教室による学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者3, 698人
(4) 実施内容(実績値等)	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、おはなし会、竹細工展示、手品、野点による抹茶接待など。体験教室として、絵手紙教室、木工クラブ、など。
(5) 事業経費(決算額)	143, 289円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数: 87人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議の事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画運営 行政側: 事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 2日間とも好天に恵まれ、多くの人出があった。催し物も着ぐるみや風船配布など発表イベントだけでなく工夫がなされておりよかった。</p>			
<p>行政側 実行委員会形式によって実施することで、当日の各出演団体準備・片付け等のみならず全体の前日準備や片付けもスムーズにできた。また事前の出演スケジュール調整も円滑に行えた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より役割を明確化しスムーズに運営ができるよう工夫が必要。また来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも観てもらえるような工夫もできるとよい。</p>			
<p>行政側 全体の準備や片付けなど徐々に実行委員会が担う役割を市職員から移行していく必要があることと、まだまだ自分たちで新緑祭を作り上げる意識が低い団体も多いため、環境を整えていく必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:①平成26年11月8日(土)、②平成26年12月13日(土)、③平成27年3月21日(土) 場所:①中央図書館、②青梅市民センター、③市役所
2継続事業	
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年3回、その時々々の課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	①学校の成績ってどうしたら上がるの?～家庭のルールが学力を変える!～ ②子育て人生をパッと明るく!～育児ストレス解消法のヒント～ ③子どもとスマホの出会い方～子育て上手のスマホ活用術～
(5) 事業経費(決算額)	②保育業務委託料11,211円 ③保育業務委託料8,772円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人青梅こども未来 参加人数:講演会各回15名前後
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育ての現場の声を反映した講演会とするため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日受付・手伝い 行政側: 周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政側担当者との良好なコミュニケーションの基(途中で担当者が変更になったが支障なく)、各回ともスムーズに実施出来た。 子ども・親を取り巻く状況(社会状況)に則した講師を紹介したものの、講師の日程及び講師料等の問題で実現できないケースがあったのは残念だったが、その都度、丁寧に連絡を取り合い、結果的には良い講師を呼ぶことが出来た。 講師との直接交渉、会場の予約と会場設営、ポスター・チラシ作成等は行政側、チラシ配付及び宣伝と声かけ、託児(保育)等は当方と、それぞれの利点を活かした役割分担が行われ、講演内容も充実したものとなり、参加者から好評を得た。 			
<p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。 講演会中の託児保育により、対象となる子育て中の保護者が参加しやすくなった。 			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの参加者が集まるよう、保護者へのリサーチ、宣伝方法の工夫に力を入れる。 			
<p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> 全回保育付の講演会とするために、託児保育が可能な講演会場の選定。 参加者増加のための周知方法の検討 			

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子で楽しく文化体験！	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:①平成26年10月25日(土)、②平成27年1月10日(土)、③平成27年3月19日(木)～22日(日) 場所:①今井市民センター、②新町市民センター、③中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	学習機会提供事業を市民が自主的に企画し、市と協働して開催
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	団体が立案した企画を元に、市民のニーズに合わせた講座を実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	①郷土料理教室「こねて簡単！ゆでまんじゅう&もちもちおやき」:参加者5組12名 ②墨文字アート教室:参加者14組34名 ③各教室の展示:参加者243名
(5) 事業経費(決算額)	共催団体である公益財団法人青梅佐藤財団が経費を負担

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人青梅こども未来 参加人数:各2名～6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	既存の市民団体の活動を拡充
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画、当日の指導 行政側: 周知、受付事務、会場確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <p>「昔を食べる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催場所の選定、予約について協議ができ、スムーズに進めることができた。講師に開催場所の地域で長年料理を教えていた高齢者にお願ひでき、青梅の昔からあるおやつ作りができた。 ・祖母と孫の参加もあり、参加者同士の3世代交流の場になった。 <p>「墨文字アート」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年始めの市民が楽しみしている行事になってきているようで、家族揃っての参加が増えてきている。 ・3～5歳の参加が増え、始めて筆や紙に触れる子も多く、親子で協力し合って書作を楽しみ、後片付けまでしっかりできた。幼い頃から日本文化に触れる場を提供出来た。 ・展示会場は、様々な作品が展示できユニークだった。 <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昔を食べる」は地域で活動する講師が選定できた。 ・「墨文字アート」は、市民側の声掛けにより幅広い年齢の親子の参加につながっている。 ・展示会は準備、受付、片づけを協働団体と分担し、来場者の声を聴くことができた。 			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔を食べるの日程は会場、講師、スタッフの都合等で秋の地域行事の多い時期になってしまった。開催日の設定に配慮が必要である。 ・開催場所が重ならないような配慮をするので、企画全体で会場・日程の計画をたてる必要がある。 ・毎年のことだか、ブルーシートの調達ができると作品書きの時間が多く取れる。(墨文字) <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昔を食べる」は年々参加者が減少しているため、内容の刷新もしくは実施を検討する必要がある。 			

協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年2月28日(土) 場所:総合体育館第2スポーツホール
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て中の家族が楽しく過ごす場を提供し、乳幼児の知性・感性・社会性を育て人格形成を図るとともに家族の絆を深めるきっかけ作り
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民のニーズに合わせた乳幼児向け体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者103人
(5) 事業経費(決算額)	63,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅こども未来 参加人数:20人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画、当日の指導 行政側:周知、申込み受付、会場確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 社会教育課との協働事業だったので、広報掲載や開催場所との連絡、申し込みや受付等がスムーズに出来た。 また申し込み受け付け期間の2日目くらいで定員以上の申し込みがあったので、講師の承諾を得て定員数を増やす事が出来た。</p> <p>行政側 団体の企画、指導により、市民のニーズに合った乳幼児向けイベントを行う事が出来た。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 開催日を決定するにあたって行政側、講師のスケジュール、こども未来の予定が合わずに2転、3転した。 もう少し、早めの話し合いが必要だと思った。</p> <p>行政側 参加者へのアンケートでは寒かったとの意見もあり、今後実施する際には、あたたかい服装で来てもらうことを告知するか、開催時期を変える等の配慮が必要だと思った。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年6月14日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「リーダーズあおうめ」 参加人数:11人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側::企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
参加申込者の範囲が広がるとともに、市民等が参加し、朗読の発表を行う場が設けられた。			
行政側			
朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
できるだけ多くの希望者が参加できるような実施形態を考えていきたい。			
行政側			
この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	---------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	整架ボランティアの人員確保、納本、書架の整理
(4) 実施内容(実績値等)	整架ボランティアにより、中央図書館の納本および書架の整理を行っている。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:図書館整架ボランティア登録者 参加人数:延べ 882人(登録者43人、年間活動日数245日)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:図書の整架 行政側:ボランティアに対する場の提供

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館の仕事に携わることにより、行政への参加および図書館に対しての愛着を持っていただけた。			
行政側			
市民ボランティアの整架により、書架が常に整理された状態になり、市民の利便性の向上が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
図書館職員との交流の必要性(職員との交流が少ないため、担当職員が勤務の都合でいない場合に相談などがしにくい状況にある。)			
ボランティア間の交流および意思疎通が必要(それぞれ任意の活動日となるため、お互い顔を合わせづらく、情報交換が困難な場合がある。)			
行政側			
できるだけ多くの職員がボランティアとの交流を持ち、整架作業が円滑に進むような環境を整える。スタッフ側の整架知識を統一し、正確な情報をボランティア側に渡せるようにする。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日 場所:中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容(実績値等)	おはなし会 72回、おはなし学習会(初級) 6回、おはなし学習会(中級) 11回、おはなし勉強会 6回、 絵本のべんきょう会 6回、
(5) 事業経費(決算額)	48,000円(おはなし学習会講師報償金 6,000円×8回) 24,000円(絵本のべんきょう会講師報奨金 6,000円×4回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、個人登録ボランティア 参加人数:延べ 33人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 私たちおはなしボランティアの目的は、子どもたちへおはなし・絵本を届けることです。図書館はそれをよく理解し、学校へのおはなし会、図書館・センターでのおはなし会を企画実行してくれます。おはなし会の実行のために、打ち合わせや勉強会などにも図書館員が参加し、よりよいおはなし会への提案など協力してくれます。私たちの活動にも一般市民への呼びかけや場所の提供などの協力により助かっています。また、学習の場を設けていただき力をつけることもできました。</p>			
<p>行政側 市民のボランティア活動に対して意識が向上し、子ども読書活動の推進が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 学校・幼稚園・保育園へのおはなし会をさらに広め、多くの子どもたちに届けたいと思っています。おはなし(昔話)・読書の文学性を教育の一環と考え、伝承・読書推進に励み活動しています。校長先生・園長先生方のお集まりのときは、ぜひこの点を伝えていただきたいと思います。理解が得られない場合は、先生方を対象におはなし会を開催することも良いかと考えます。ボランティアが図書館と活動することを示し、“地域とのつながり”をアピールするのも良いのではないのでしょうか。</p>			
<p>行政側 この活動は、図書館事業(子ども読書活動推進事業)でもあるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとって良い事業であるようにしていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	読書推進特別映画会 「疎開した40万冊の図書」	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年10月25日 場所:中央図書館
1単年度事業	
(2) 事業の目的	読書週間(10月27日～11月9日)に先駆け、読書推進特別映画会「疎開した40万冊の図書」を開催し、市民への読書の推進と、多目的室で実施することによって、普段図書館を利用することのない市民に、図書館を身近なものと感じていただき、新規利用者等を取りこむこと、ならびに図書館の蔵書の利用促進を図ること、さらに青梅の図書館を考える会と共催で事業を行うことにより、市民活動団体等と行政とが、それぞれの立場を理解し合い、尊重し合うとともに、それぞれの特性を生かしながら、創意を生かした協働型のまちづくりを促進することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	映画会参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	映画「疎開した40万冊の図書」の上映(来場者66人)
(5) 事業経費(決算額)	DVD借上げ料 50,000円(市負担分)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅の図書館を考える会 参加人数:7人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の図書館を考える会との共催事業は、以前より講演会等を共催で行ってきた経緯があるが、映画会の開催および上映内容など図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画立案、広報、DVD借用、映画会の開催運営 行政側:企画立案、広報、会場提供、映画会の開催運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
市民側 広報活動を市民側も担うことで外部に向けた広報が行われ、さまざまな場面で市民に認知してもらう効果があった。〈例〉青梅線の駅(4ヶ所)構内、近隣の市町村も含めて書店でのチラシ掲示、等。			
行政側 今回は、協働団体が選定した「疎開した40万冊の図書」の上映ということで、来場者に図書館への関心を高めていただくとともに図書館の利用促進が図ることができた。また、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 今回、映画会に関する市民側の意見は、アンケート回答形式による記入に限定された。映画会終了後に図書館職員と市民が参加する懇談会形式は、市民の一方的な感想や希望だけでなく、それに対する図書館職員の感想や意見を表現する場でもあり、両者が意見を共有することにより、今後の図書館運営にも有益と思われる。その他では若い世代の参加が少なかったため今後はPRの方法に工夫が必要で			
行政側 当該団体との協働事業は隔年で実施されており、事業内容についても講演会、映画会等、図書館の設置目的の推進に則したものとなっている。今後においても市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	おそきいいところ再発見！！	おそきの学校と地域を考える会	住宅課・市民活動推進課
2	自由	～初めてママになる人のために～マタニティー♡安心ストレッチ～	特定非営利活動法人 青梅こども未来	健康課
3	自由	おうめ若者カフェ	特定非営利活動法人子どもと文化 NPO 子ども劇場西多摩	社会教育課・市民活動推進課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次の3つのテーマについて、事業を提案するもの

(1) 高齢者等の見守り体制構築事業

一人暮らしの高齢者や高齢者世帯、また障害者や生活困窮者など何らかのサポートを必要としている市民に対し、医療や介護などの公的サービスだけでなく、市民活動団体のもつ能力を活かした支援を行う。

(2) 市民活動団体等による協働担い手育成事業

活動実績のある団体から活動間もない団体へノウハウ等を伝授して、将来協働の担い手となれるような団体を育成する。

(3) 商店、商業を通じた地域活性化事業

既存商店街等の特色を活かし、にぎわいを創出することにより、地域の課題解決や来街者の増加につながる事業を行う。

事業名 おそき いいところ再発見！！



田舎暮らし体験「稲刈り」



田舎暮らし体験「さと芋掘り」



田舎暮らし体験「集合写真」



国際色豊かな「おもちつき」

- 1 実施団体 おそきの学校と地域を考える会
- 2 担当課 生活安全部住宅課、市民部市民活動推進課
- 3 実施時期 4月1日～2月28日
- 4 参加者 小曾木地区を中心とした地域住民、および、小曾木地区に関心がある方
- 5 実施場所 小曾木地区の全域
- 6 事業の目的 **【自由提案】**

小曾木地域の豊かな自然と、そこに集う様々な年齢の人々と出会い交流する体験から、在住者は地域に自信を持ち、地域外の方にはこんな暮らしもいいなと感じてもらえる事業を展開する。

同時に地域内の空き家等を利用し、地域に住める場所の確保を検討する。
- 7 役割分担 団体の役割…事業の実施
担当課の役割…情報発信時のPR協力、地域情報の提供、可能なイベントへの参加協力

8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)

- ① 田舎暮らし体験を実施したことにより、毎日新聞を始めとするメディアの方々に小曾木地区でのイベントを報道いただき、都外・都区内、市外の方に小曾木地区の良さをPRできたとともに実感いただけた。
- ② ブログ内容の充実に加え、フェイスブックページを新たに立ち上げ、地域情報や興味のある方への情報発信力を高めることができた。
- ③ 小曾木っ子まつり、おもちつきの開催により、地域での幸福感向上が得られた。
- ④ 住宅課と協働で空き家対策に取り組んだことにより、小曾木地区だけでなく青梅市として、今後取り組む上での課題が明らかになった。

9 目標達成

事業の目標

- ① イベント時にアンケートを実施した結果として、「イベントなどを一緒にやってみたいと思う」という項目を設け、その割合が1割を超えること。
 - ・小曾木っ子まつり……0名/回答4名中
 - ・田舎暮らし体験……1名/回答25名中 ⇒3.4%目標未達
- ② 青梅市以外からの地域イベント参加者が、1割を超えること。
 - ・小曾木っ子まつり……0名/回答3名中
 - ・田舎暮らし体験……25名/回答105名中 ⇒23%目標達成

目標の達成具合

- ① イベントへ主体的に関わろうという方は少なく、意識醸成にはもっと深い関わりが必要なことがわかった。
- ② 田舎暮らし体験ではメディアへのPRが功を奏した結果、他地域からの多数の参加が得られるとともに移住希望者の存在も直接知ることができ、今後の地域活動の自信にもつながった。

10 事業の実施内容

- ① 地域情報、イベント情報、地域PRの発信の強化。
 - ・ホームページまたはブログ利用
 - ・フェイスブックの新規利用
- ② 小曾木っ子まつりへの地域内外の方々の吸引をさらに強化。その場での地域PRの実施。
- ③ 田舎暮らし体験の実施。
- ④ お餅つきの実施。
- ⑤ 住宅課と連携した空き家等の活用方法の検討および情報発信。
 - ・青梅市住宅施策推進協議会も連携し、情報収集と情報発信を実施。

11 実施団体と担当課の事業評価

4はい 3どちらかといえば「はい」 2どちらかといえば「いいえ」 1いいえ

調査項目	会	住宅課	市民活動 推進課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4	3
(8)設定した目標が達成された	4	4	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4	3

12 まとめ(今後の課題や改善点など)

①地域情報の発信にフェイスブックを新規に立ち上げたことによって、ブログによる訪問者を待つ状況から、積極的な発信へつなげられた。

ブログによる情報発信では、発信項目が増えた場合に見やすさが劣ってくることもわかったので、ホームページで簡易に更新できる形のものへの進化を狙いたい。

②小曾木っ子まつりは、子どもから高齢者までが一緒に集え、地域の方による遊びコーナー設置により生き甲斐作りにもつながる状況が作れている。

地域情報発信も行ったが、参加者は地域内の方が大半であった。

③「OME city おそきDE 田舎暮らし体験」は、参加者 105 名(小学生以上 85 名、幼児 20 名)、都外 4%、都内で市外 20%、青梅市内で小曾木外 53%、小曾木内 23%。スタッフ参加者 31 名を加えると、136 名が参加した大イベントとなった。

メディア取材は、毎日新聞(都区内版・多摩版)、読売新聞、TCN、西多摩新聞、西の風から受け、そのすべてで掲載または上映いただけた。毎日新聞には、空き家対策を引き続き取材していただいている。

④おもちつきは、横田基地のファミリーを含め 72 名の参加、スタッフ 24 名の計 96 名参加。ゲームで交流する時間も設けて、国際色豊かなイベントができた。

⑤「空き家活用方法の検討」は、住宅課の積極的な取り組みにより、検討を越えた活動に入った。住宅課・青梅市住宅施策推進協議会・当会の三者での協働事業として、1年間ほぼ毎月打ち合わせを実施しながら活動を進め、協働事業のお手本ともいえるべき活動ができたと考えている。

次年度の活動へ向けては、「一般財団法人地域活性化センター」への「平成 27 年度 移住・定住・交流推進支援事業」へ当会は青梅市を通じて助成金額 200 万円での空き家対策申請し、150 万円で採択された。これは青梅

市の市民活動推進上も大変大きな出来事であり、3年前の市民提案協働事業開始とともに活性化した当会の事業が、更に次年度活発化することにつながる。

空き家対策を1年間熱心に三者で進めてきたが、直接地域住民の増加につながる結果は得られなかった。しかしながら、不動産取引上の仲介できない問題、一部業者の情報のみが発信される結果となる問題、既存建物が市街化調整区域が指定された昭和45年(いわゆる線引き)以前の建築か以後かによる問題、不動産所有者の相続問題等、様々な問題が空き家対策には課せられている状況を理解することができ、今後の国の施策動向に合わせてのスムーズな展開につなげられる準備をすることができた。

13 その他 特になし

以上

事業名 ～初めてママになる人のために～
 マタニティ♡安心ストレッチ



- 1 実施団体 特定非営利活動法人青梅こども未来
- 2 担当課 健康課(福祉総務課)
- 3 実施時期 ①平成26年6月5日・12日・19日・26日(木)
 ②平成26年11月6日・13日・20日・27日(木)
 ①②共に、午前10時～正午

- 4 参加者 ①9名 ②10名
- 5 実施場所 青梅市福祉センター・和室

6 事業の目的

人が「親」となることをきっかけに、それまでの「単・個」的な存在から「複・系」的な存在へとスムーズに移行できる環境を整えることを目的に、初めての出産を控えた妊婦を対象とした「体の変化に応じたストレッチ」を行い、集まったメンバー間での仲間づくり、住まう地域の人・物・施設等(社会的資源)と、出産前・出産後を通じて繋がれる基盤づくりを行う。

7 役割分担

・団体の役割

- 担当人員(講師・スタッフ)の確保
- 広報活動 ■募集受付 ■会場準備 等

・担当課の役割

- 会場予約 ■広報おうめへの告知・募集記事掲載
- 健康センター主催行事等での参加呼びかけ
- 開催時(初回)、参加者への挨拶(協働開催の主旨等の説明) 等

8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)

参加者は、妊娠中から「親」として「社会と繋がる下地づくり」、また同じ時期に出産する参加者同士の「仲間づくり」が出来ることにより、周囲との関係が成立する環境下・孤立することなく子育てが出来る手立てがある中で新たな命の誕生を安心して楽しみに待てる環境が整った。

9 目標達成

・事業の目標：

- ①妊娠による腰痛や肩こり等の緩和、適度な運動の必要性を伝える
- ②出産までの仲間づくり
- ③出産以降の子どもの年齢に応じた継続的な仲間づくりへと繋げる
- ④地域の人・施設・行政との繋がり確立

・目標の達成具合：

- ①講師のアドバイスのもと、妊娠中でも体を動かし、腰痛や足のつりなどの症状を緩和する方法を学んだ参加者から、「家でもやってみました！」「夫にも教えて一緒にストレッチしました！！」等の嬉しい報告があった。中には「逆子がなおりました」との報告(2件)もあったが、本講座は、あくまで「心身のリラックスと適度な運動」を目的としたものであり「笑顔で集い、気持ちが楽になったことが何より」と伝えた。
- ②③講座終了後に連れだって「昼食」に出かける、連絡先を交換し合う等、参加者同士の交流が見られた。
- ③④子育て支援のNPO法人として活動する「青梅こども未来」のさまざまな事業の紹介、特に出産後間もなくから利用できる「青梅こども未来館」での「にこにこ広場」、市内各市民センターで開催の「子育て広場」、「青梅市子育て支援センター」、さらに第一子(生後2ヵ月)と親を対象とした講座「BP(ベビープログラム)」を紹介。出産後の継続的な支援体制について知ってもらう良い機会となった。

10 事業の実施内容

第1回 「体はどうなってるの？どんなことするの？」

第2回 「深呼吸してますか？」

第3回 「妊娠で生じる体のトラブルを解消しよう！」

第4回 「心と体のリラクゼーション法」

*全回とも「自由におしゃべり」出来る時間を設定

◆詳細については別紙「プログラム内容報告①②」参照

11 実施団体と担当課の事業評価

4はい 3どちらかといえば「はい」 2どちらかといえば「いいえ」 1いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ(今後の課題や改善点など)

- 当初、協働を希望する課として健康課の他に、福祉総務課、青梅市立総合病院を希望したが、最終的に「健康課」との協働という事で協定書を取り交わしての開催となった。ただし「福祉総務課」とは、民生児童委員会合同協議会において民生児童委員の皆さんに第1回・2回開催時に2度に渡り「チラシ」を配付依頼したことで、当事業実施に当たっての理解と今後、何らかの事業で協働できるのではないかと期待が持てた。一方で、産婦人科を有する青梅市の施設である「青梅市立総合病院」と連携しての開催が何より望ましいところだったが、ポスター掲示・チラシ配付等の宣伝活動が行えなかったことに疑問を感じる。改善を望む。
- 健康課との協働開催ということで「広報おうめ」の健康センター行事のお知らせ欄に募集記事が掲載されたこと、「健康センター主催の妊婦さん対象事業」で周知宣伝を行えたことが、興味のある対象者が躊躇せず安心して申込み・参加する手助けとなった。また、第1回開催時には初回に、第2回開催時には初回と最終回に、母子保健係係長が会場に出向き、協働開催の主旨や健康課と青梅こども未来との協力関係等について伝えることにより、協働開催への参加者の理解を得、「今後」に繋がる支援が出来た。
- 開催場所は「健康センターが良いのではないか？」との思いがあり、健康課にその旨伝えたところ「館内は年間を通じさまざまな事業(行事)が割り当てられており、協働事業のために年2回8日間の部屋の確保は難しい」とのこと。会場とした福祉センターは健康センターに隣接し(青梅こども未来館にも近く)、管理責

任者も常駐する公的な場で、和室はトイレにも近く妊婦さんが集う場としては相応しい場であった。

- 「二人目を妊娠中だが、参加できないか？」等、「第一子の妊娠」ではない妊婦さんからの「マタニティ安心ストレッチ」開催を望む声が複数、聞こえた。

今回の協働事業は「第一子出産を前にした妊婦さんの社会・仲間との関係づくり」を目的に開催したが、今後、第二子以降の出産を控えた妊婦さん対象の事業も考えたいとの思いを強くした。

事業名 おうめ若者カフェ



1 実施団体

(特)子どもと文化のNPO 子ども劇場西多摩

2 担当課

市民活動推進課 社会教育課

3 実施時期

平成26年4月～平成27年2月

4 参加者 計322名

5 実施場所 福祉センター及び釜の淵市民館

6 事業の目的

市民活動団体や自治会活動の中に、若者たちの姿が少なくなり、まちの担い手の高齢化が課題となっている。平成26年に4年目となる、おうめ若者カフェ（若者たちがゆるやかに繋がりながら、青梅のまちづくりを考える）のネットワークを継続し、活動することで、①青梅に住み続け、青梅を愛し、活動する若者を育んでいく。②つどいやまち活動大交流会を通じて、青梅のよさを市内外に伝えていく。

③青梅市主催の若者も対象となる、まちづくり講座などへの積極的な参加を促し、若者の市政への参加を呼びかける

7 役割分担

・団体の役割

- ① 事業の実施。
- ② 若者のネットワークづくりの周知及び運営

・担当課の役割

- ① 広報周知
- ② 会場確保
- ③ 事業の実施への協力

8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)

- ① 若者が継続して活動をすることで、まちづくり活動に大切な力をつけることができた。
- ② つどい、まち活動交流会を通じて、「まち」のために何かしたい！と思っている人の気持ちを寄せ合い、交流することができた。
- ③ 「コト Bar」の開催によって、子ども達がどのような意見を持っているのか、地域の大人たちが直接コトバを交わすことができ、大人・子ども双方の信頼への一歩を踏み出すことができた。
- ④ 新たな登録者があり、SNSを通じたネットワークも、558名となった。今までまちづくりに関心はあっても、一歩踏み出すことのできなかつた人たちを巻き込むことができた。
- ⑤ 目的の3つめにあたる、市の主催の講座への積極的参加についても、社会教育課の青梅まちづくり工房へ、おうめ若者カフェ実行委員のメンバーが3名参加することができた。またまち活動大交流会の中でも、青梅まちづくり工房の成果を発表する場も位置づけ、連携のとれた活動ができた。

9 目標達成

事業の目標：①つどい全4回の開催と、実行委員会の運営

②おうめ若者カフェまち活動大交流会の開催と運営

目標の達成具合：

つどいを4回だけでなく、まち活動大交流会の打ち合わせも含め、5回

の集まりを持つことができた。まち活動大交流会も、実行委員会の役割分担のもと、スムーズに開催することができた。

10 事業の実施内容

*5/27 つどい1開催 参加者 18名

内容:今年度のおうめ若者カフェの計画についての提案・討議

*7/12 つどい2開催 参加者 12名

内容:今年度の計画の決定・周知 交流会内容決めに向け討議

*9/14 つどい3開催 参加者 24名

内容:ネットワークづくりのための交流・大交流会打ち合わせ

*11/29 つどい4開催 参加者17名

内容:2/8 まち活動大交流会に向けての討議

*1/18 まち活動大交流会参加団体打ち合わせ会 参加者31名

*2/7 まち活動大交流会前日準備 参加者 13名

*2/8 まち活動大交流会開催 参加者207名

内容:市内の市民活動グループのPRコーナー、まち活動としてのパフォーマンスを行う団体のステージ、中高生と大人の語り合いの場「ティーンズ コトBar」別紙チラシ参照

まとめ交流会 参加者 28名

*おうめ若者カフェのパンフレット作成 1500部

*実行委員会 5/14・6/30・9/1・11/10・1/18・2/7・2/26

他各担当者の打ち合わせ複数回

11 実施団体と担当課の事業評価

4はい 3どちらかといえば「はい」 2どちらかといえば「いいえ」 1いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	2
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	3	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

12 まとめ(今後の課題や改善点など)

つどいや講座、ステージの運営をしていた2013年度から、今年はステップアップし、具体的な活動の場として、まち活動大交流会を開き、自分たちで活動するだけでなく、市内のネットワークを広げることができた。またおうめ若者カフェの活動を多くの人に理解してもらえる場にもつながった。

「おうめ若者カフェ」とは何か？をもっと言葉にする必要性があることを、前年度の課題としてあげていたが、今年度はパンフレットを制作し、より明確なものとして提示することができた。またコンセプトも次年度に向けて、“若者の力をまちに”“おもいを行動に”“ここに住みたいと思えるまちに”の3つにまとめることができ、ビジョンが明確になった。

若者が集う青梅市、若者がまちづくりにかかわりたいと思える青梅市をつくるためには、その受け皿となる活動団体が必須と考えられる。公共性が高く、若者が具体的に活動し、力をつけ、青梅市を担える人に成長できる場を、今後とも市との協働として継続していきたい。

13 その他

来年度は558人のネットワークから、1700人のネットワークを目指し、活動していきたい。

